

国立大学法人

東京農工大学

農学部 / 工学部



GUIDE BOOK 2026

TOKYO
UNIVERSITY OF
AGRICULTURE &
TECHNOLOGY

BIOLOGICAL PRODUCTION /
APPLIED BIOLOGICAL SCIENCE /
ENVIRONMENTAL AND NATURAL
RESOURCE SCIENCE / ECOREGION
SCIENCE / COOPERATIVE

DEPARTMENT OF VETERINARY
MEDICINE / BIOTECHNOLOGY AND
LIFE SCIENCE / BIOMEDICAL
ENGINEERING / APPLIED
CHEMISTRY / APPLIED PHYSICS

AND CHEMICAL ENGINEERING /
MECHANICAL SYSTEMS
ENGINEERING / ELECTRICAL
ENGINEERING AND COMPUTER
SCIENCE

次世代の社会を創造する!!

MORE SENSE

美しい地球持続のために

地球をまわそう

それは地球を取り巻く問題に積極的に取り組み、科学の進化に貢献する姿勢です。

東京農工大学では、国際社会でリーダーとしての役割を担い、
持続発展可能な社会づくりのための人材育成と知の創造に邁進し、
未来の地球をまわす人材を世に送り出していきます。

CONTENTS

- 01 世界が注目する研究キーワードBX／GX
- 02 先端研究の現場REPORT
- 06 東京農工大学のグローバル教育
- 10 学長MESSAGE／沿革
- 12 東京農工大学の学び
- 14 学部学科INDEX

農学部

- 16 生物生産学科
- 18 応用生物科学科
- 20 環境資源科学科
- 22 地域生態システム学科
- 24 共同獣医学科

工学部

- 26 生命工学科
- 28 生体医用システム工学科
- 30 応用化学科
- 32 化学物理工学科
- 34 機械システム工学科
- 36 知能情報システム工学科

- 38 大学院
- 40 キャリア支援／進路・就職
- 42 府中キャンパス
- 44 小金井キャンパス
- 46 CAMPUS LIFE
- 48 農工大生の1日
- 50 学生生活サポート
- 52 入試情報
- 53 オープンキャンパス

世界が注目するキーワード

BX GX

BlueTransformation

GreenTransformation

海洋資源の開発と保全は、日本における重要な研究テーマです。その有効活用においては、海域のみならず、陸域を含む地球全体の環境と生態系を理解した研究・開発の推進が求められます。特に、生物を介して海洋に取り込まれる「ブルーカーボン」と森林等の陸域に取り込まれる炭素「グリーンカーボン」の活用が研究の鍵を握ります。東京農工大学では、海域でのブルーカーボン研究「ブルートランスフォーメーション（BX）」、陸域でのグリーンカーボン研究「グリーントランスフォーメーション（GX）」を包括する最先端教育研究を展開しています。

「BX・GX国際教育研究拠点」が始動！

東京農工大学では、2023年4月にBXとGXの統合・融合による教育研究拠点である「BX・GX国際教育研究拠点」を設置しました。海洋学分野で世界をリードする国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）と連携し、陸域・海域を網羅する融合学問領域の創出やそれを担う国際的人材を育成します。さらに、本拠点では、連携大学院プログラムの一環として、JAMSTECの有する最先端技術を活用した研究および教育プログラムの提供、カーボンニュートラルに関わる海外有力大学や研究機関との国際連携、スタートアップ創出の推進を行います。





農学部環境資源科学科 教授

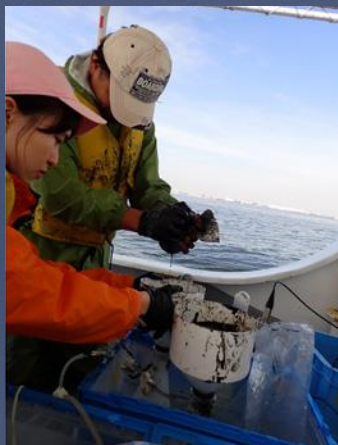
梅澤有
UMEZAWA, Yu

水圏科学研究室

農工大が培ってきた農芸化学の技術を活用して
海藻藻場など海洋の沿岸生態系を再生する

沿岸生態系の海草、海藻、マングロープなどの植生帯は、ブルーカーボンの貯留に重要な役割を果たしています。近年、地球温暖化や人間活動の影響で、こうした植生帯の劣化が進んでおり、沿岸生態系回復に向けた取り組みが海洋・水産系の研究者中心に行われてきました。そこで当研究室では、東京農工大学がこれまで培ってきたイネ・野菜の栽培に活用されてきた農芸化学系の技術を海草やマングロープの種苗生産に適用し、海藻藻場を再生するという世界で類を見ない取り組みを行っています。

当研究室は「水圏の物質循環」をテーマとしており、海洋生物の生育に不可欠な窒素やリンなどの元素が、大気・河川・地下水・堆積物・外洋域のどこからどの程度、沿岸海域に供給されるのかを、同位体地球科学的手法などを用いて調べてきました。沿岸生態系の回復に関する研究は、この延長線上にあります。海藻藻場のCO₂吸収源としての特徴が窒素やリンなどの供給量によってどう変動しうなのか、健全な海藻藻場の面積を適切な方法で増やすことはできないのか、幅広い視点で海洋環境保全に資する研究に取り組んでいます。



東京湾海底堆積物からのラドン濃度分析用の間隙水抽出作業

海洋への地下水湧出を調査し
東京湾の物質循環を把握する

東京湾における地下水湧出について研究しています。地下水は陸域に存在するものと考えられがちですが、海底からの地下水湧出も世界各地で確認されています。従来、海洋への栄養物質の供給は河川由来が主であると考えられてきました。しかし、特に自然海岸では、海域に流入する地下水量や地下水によって運搬される物質量は、河川に匹敵するかそれ以上であるという研究結果がでています。このため、人工護岸で覆われた東京湾においても地下水湧出の動態を明らかにしたいと考えました。

すでに、東京湾の表層水で、地下水指標であるラドン濃度を測定・確認し、地下水の存在を示唆する論文を卒業課題として提出しました。修士論文では、東京湾の表層水中のラドンや栄養塩の濃度と海草分布や光合成量を比較し、地下水が浅海域生態系に与える影響を示すことができればと考えています。水に関する研究から環境問題にアプローチしたいと考えていたの、この研究に大きなやりがいを感じています。



大学院農学府農学専攻
自然環境資源コース
修士課程2年

松本瞳

MATSUMOTO, Hitomi

私立富士見中学校高等学校出身



ブルーカーボン
Blue Carbon

海草・マングロープなどの海洋の植物・藻類によって吸収され海洋に貯留される炭素のこと。藻場は、多様な生態系機能に加え、大気中CO₂濃度の上昇を緩和する役割も期待されている。



生物試料の化学成分分析により環境汚染や食物網を明らかにする



熱帯性海草藻場における化学成分分析用の堆積物試料採取の様子

カーボンリサイクル

Carbon Recycle

CO₂を回収して再利用し、新たなエネルギーや製品を生産する技術やプロセスのこと。CO₂を廃棄物として扱うのではなく、資源として活用し、持続可能な社会の実現を目指す。



工学部生命工学科 教授

田中剛

TANAKA, Tsuyoshi



培養中の藻類(奥)から抽出したオイル(左)と精製した乾燥バイオマス(右)



研究室で保有している微細藻類コレクション

生命分子工学・ 海洋生命工学研究室

微細藻類を用いてCO₂から有用物質を生産し、
「ブルーカーボンリサイクル」の技術を確立する

海洋に生息する藻類は、ブルーカーボンの吸収源として注目されています。当研究室では、海洋から収集してきた多種多様な微細藻類コレクションを保有しています。これらの微細藻類は、光合成によって大気中のCO₂からさまざまな有用物質を合成することができます。そこで、このコレクションを利用して、藻類からバイオ燃料や医薬品原料を生産し、産業利用する方法を模索しています。

まず、分子生物学的な解析によって特定の機能を持つ微細藻類を選抜し、ゲノム編集の技術を用いて、有用物質の生産に特化した新しい微細藻類を創出します。さらに、機能性を向上した微細藻類を大規模培養する技術の開発にも取り組んでいます。いくつかの微細藻類に関しては、世界で初めてゲノム解読や遺伝子改変の手法確立に成功しています。

微細藻類の機能を工学的に活用できれば、CO₂を海洋に戻し、バイオ燃料などの有用物質を生産する「ブルーカーボンリサイクル」の技術を確立できます。海洋生命工学の分野から「カーボンニュートラル」の実現に貢献したいと考えています。



微細藻類の遺伝子を改変し
有用物質の生産性を向上させる



遺伝子を改変した微細藻類を培養して、プロスタグランジン合成させる

研究テーマは、「微細藻類を用いたプロスタグランジン生産」です。緑内障の治療薬などに用いられるプロスタグランジンという物質を藻の一種である微生物に合成させる研究になります。実験では、研究室で培養する特定の藻類を網羅的に解析し、プロスタグランジン合成に関連するたんぱく質を同定します。そして、当該たんぱく質を増やす機能を持たせるように藻類の遺伝子を改変していきます。効率のかつ環境負荷の低いプロスタグランジン合成のプロセスを開発できればと思っています。私はもともとヘルスケアの分野に興味があり、工学部生命工学科を選びました。そして、入学後に微細藻類の研究を知り、その将来性と新規性に魅力を感じ、この研究室を選びました。今後の産業の発展には、バイオテクノロジーの観点は不可欠です。学んできた最先端の技術を駆使して、大学院修了後も環境や医療に貢献できる研究を続けていきたいと思っています。



大学院工学府 生命工学専攻
博士前期課程2年

村上真優

MURAKAMI, Mayu

私立南山高等学校女子部出身

温室効果ガス Greenhouse Gas

地球の大気や海水の温度上昇を促す性質を持つ気体のことを指し、CO₂やメタンなどが該当する。地球温暖化の主な原因として、世界規模で排出量の削減が推進されている。



地域生態システム学科
准教授

西脇淳子
NISHIWAKI, Junko

条件の異なる土壌を比較してガスの動態を調査する



環境地盤工学研究室

土壌における温室効果ガスの動的調査を通じ、「縁の下」から環境問題の解決に貢献する

地球温暖化の主要因である二酸化炭素を吸収する植物は、土の中の栄養分を利用して生命を維持しています。その点、土壌は気候変動において非常に重要な役割を果たす、まさに「縁の下の力持ち」です。一方、土壌で発生した温室効果ガスが大気中に放出されるなど、悪影響を及ぼす側面もあります。そこで、土壌内部でのガスの挙動に着目し、環境問題の解決に寄与することが私の研究内容です。従来の温室効果ガスの研究においては、主に大気中での動態や土壌から大気への放出が取り上げられてきました。土壌内部を詳細に測定・解析する研究は、世界的に見ても比較的新しい視点からのアプローチです。研究室では主にフィールドワークを行い、実際の畑地や水田を用いて温室効果ガス動態の調査を行っています。また、現地では追跡が難しい詳細な条件変化によるガス動態の変化については、室内の培養試験などを用いて補足的なデータを収集しています。こうした多角的な取り組みにより、農業実践や気候変動の改善に向けた具体的な情報を得られる点が、研究の大きな独自性になっていると考えています。



バイオマス Biomass

生物由来の資源のことをバイオマスという。稲わらや家畜ふん尿などの農業廃棄物、下水汚泥、食品廃棄物など様々な未利用廃棄物がある。これらをエネルギーや有価物へリサイクルすることで、環境・資源問題の解決を図る。



工学部化学物理工学科 准教授

利谷翔平
RIYA, Shohei



環境バイオエンジニアリング 研究室

家畜ふん尿などの農業廃棄物を エネルギー利用可能なメタンに変換する

家畜ふん尿の「メタン発酵」について研究を行っています。畜産廃棄物などの未利用バイオマスを電気や熱エネルギーとして利用可能なメタンに変換する技術開発になります。実験では、畜産農家や試験場から提供された豚のふん尿に稲わらを加えて、独自のメタン発酵装置で、効率的な発酵方法や発酵条件の検討を行っています。また、発酵後の残渣（残りかす）の活用に関する研究にも取り組んでいます。この研究の独自性は、「乾式メタン発酵」という新規技術の開発にあります。これは、原料に水を加える従来の「湿式メタン発酵」に対し、稲わらを混ぜた粘土状の原料を発酵させる技術で、残渣をそのまま堆肥化できるというメリットがあります。現在はメタン発酵の工程だけでなく、原料の生産、残渣の変換、作物栽培など、ふん尿処理システム全体の環境への影響やエネルギー収支などの解析を学内外の研究者と共同で進めています。乾式メタン発酵による循環型システムを構築できれば、環境負荷の少ない新たな家畜ふん尿処理法の提案も可能です。工学分野からGXに貢献していきたいと考えています。



専用機器でメタンガスを測定



家畜ふん尿に稲わらを加えた乾式メタン発酵装置

水田でのフィールドワークで 二酸化炭素とメタンの相関を分析



チャンバーを用いた水田でのフィールドワークの様子

水田から放出されるメタンと吸収される二酸化炭素の関係を調べる研究に取り組んでいます。メタンは二酸化炭素に次いで地球温暖化の要因になっている温室効果ガスです。土壌に関連した2つの温室効果ガスの相関を動的に調べることで、それらの削減技術の発展に貢献したいと考えています。この研究では、水田でのフィールドワークと研究室での分析という室内外両方の作業に注力しなくてはなりません。夏場は炎天下での作業となることもありますが、収集したデータからさまざまな内容を読み取る過程が楽しく、それがやりがいになっています。私は高校時代から環境問題に興味を持っており、自分に合った関連分野を見つめたいと幅広い学びがある地域生態システム学科に進学しました。今後は大学院に進学し、より継続的な土壌内部のデータ収集に取り組むと考えています。将来的には、土壌を起点に食の安全を守る仕事に就くことを目指しています。



大学院農学府農学専攻
食農情報工学コース
修士課程1年

大久保直紀
OKUBO, Naoki

東京都立竹早高等学校出身

「温度2段メタン発酵法」を 乾式メタン発酵に適用する



バイオリアクターに接続したガスバッグにメタンガスが溜まっていく

「高温乾式メタン発酵の最適化」に関する研究を行っています。豚のふん尿と稲わらを使った乾式メタン発酵のエネルギー生産量最大化を実現する温度と反応時間を細かく検討しています。具体的には、メタン発酵のうち加水分解過程を55℃付近で促進し、メタン生成過程を37℃付近で安定化する「温度2段メタン発酵法」に着目し、この方法を乾式メタン発酵に適用するという新しい挑戦を行っています。実験では自ら条件を設定し、リアクターを作成して、メタン発酵装置の運転を行います。リアクターに接続したガスバッグにメタンガスが溜まっていくと発酵が進行しているのがわかります。その反応過程を観察するのが面白いですね。実験後、発酵物や発生したガスを専用機器で分析する工程で、化学的な分析スキルも鍛えられます。将来は、ケミカルエンジニアとして、環境エネルギー分野の問題解決に貢献できる職業に就きたいと考えています。



大学院工学府
化学物理工学専攻
博士前期課程1年

増山稜汰
MASUYAMA, Ryota

富山県立富山高等学校出身

イノベーションリーダーを育成する

東京農工大学のグローバル教育

東京農工大学では、各学生の目的や語学力レベル、専門に応じて、さまざまな留学プログラムを用意しています。短期語学留学から専門性の高いセメスター派遣、本格的な研究留学まで多彩なチャンスを提供し、グローバルに活躍するイノベーションリーダーを育成しています。

世界41か国・地域164機関のネットワーク

ASIA アジア

- インドネシア
ボゴール農科大学
バンドン工科大学
ガジャマダ大学
ランブン大学
インドネシア技術評価応用庁
ベテランジョグジャカルタ大学*
ウダヤナ大学
インドネシア大学
スンパワ工科大学
ジェンパー大学
- カンボジア
カンボジア王立農業大学
カンボジア工科大学
- タイ
チュラロンコン大学
カセサート大学
キングモンクット工科大学ト
ンブリ校
マヒドン大学
- タイ
チェンマイ大学
マハナコーン工科大学
ナレスアン大学
スラナリー工科大学
- 韓国
慶熙大学校
済州大学校
国立慶尚大学校*
全南国立大学校
大邱慶北先端医療産業振
興財団*
- 中国
浙江大学
南京林業大学
華東理工大学
中国農業大学
東北林業大学
南京農業大学
東華大学
東北農業大学
貴州大学

- フィリピン
ビサヤ州立大学
フィリピン大学ロスバニョス校
フィリピン大学ディリマン校
セントルイス大学
デ・ラサール大学
- ブルネイ・ダルサラーム
ブルネイ・ダラサラーム大学*
- ベトナム
カントー大学
フエ農林大学
ハノイ科学技術大学
ホーチミン市科学大学
ホーチミン市工科大学
ホーチミン市国際大学
ベトナム林業大学
ベトナム国立農業大学
ノンラム大学
チャビン大学
- マレーシア
マレーシア工科大学
マレーシア・プトラ大学

- マラエシア
マラエシア国民大学
- ミャンマー
イェンジン農業大学
- ラオス
ラオス国立大学
- 台湾
台湾工業技術研究院
国立陽明交通大学
国立中興大学
国立高雄科技大学*

- アメリカ
ニューヨーク州立大学バッフ
アロー校
パデュー大学
ハワイ大学マノア校
カリフォルニア大学デービス校
コーネル大学*
カリフォルニア大学リバーサイ
ド校*
- オーストラリア
モナッシュ大学
ロイヤルメルボルン工科大学
クイーンズランド大学
- ニュージーランド
リンカーン大学

NORTH AMERICA 北アメリカ

- アメリカ
ニューヨーク州立大学バッフ
アロー校
パデュー大学
ハワイ大学マノア校
カリフォルニア大学デービス校
コーネル大学*
カリフォルニア大学リバーサイ
ド校*
- オーストラリア
モナッシュ大学
ロイヤルメルボルン工科大学
クイーンズランド大学
- ニュージーランド
リンカーン大学

OCEANIA オセアニア

- オーストラリア
モナッシュ大学
ロイヤルメルボルン工科大学
クイーンズランド大学
- ニュージーランド
リンカーン大学

SOUTH AMERICA 南アメリカ

- ブラジル
パウリスタ総合大学
カンピナス州立大学
- ペルー
ラ・モリーナ国立農業大学
国立農業研究所
国立セルバ農業大学
- メキシコ
チャピンゴ自治大学
国際トウモロコシ・コムギ改
良センター

EUROPE ヨーロッパ

- イタリア
ローマ大学
ミラノ大学
フィレンツェ大学
パドヴァ大学
- フランス
グルノーブルアルプス大学
モンペリエ大学
ナント国立高等中央学校
ポールサバティエ大学
(トゥールーズ第三大学)
パリエストックレイユ大学*
グスターヴ・エッフェル大学
ESIEEパリ・エンジニア学院*
ストラットデザイン学校
パリ国立先端技術学校
- ブルガリア
トラキア大学
- ポーランド
ヤゲロニア大学
ポーランド日本情報工科大学
- ボルトガル
リスボン大学
- ロシア
パンフィック・ナショナル大学
モスクワ大学生物学部*
モスクワ大学土壌学部*

- ドイツ
アーヘン工科大学
ボーエンハイム大学
ボン大学
ミュンヘン工科大学
シュタインバイス大学
ユリウス・クーン研究所
生物学的防除研究所*
- オーストリア
ウィーン獣医科大学
- オランダ
ヴァーヘニンゲン大学
フロニンゲン大学
- スウェーデン
スウェーデン王立工科大学
カロリンスカ研究所*
- スペイン
オビエド大学

- フランス
グルノーブルアルプス大学
モンペリエ大学
ナント国立高等中央学校
ポールサバティエ大学
(トゥールーズ第三大学)
パリエストックレイユ大学*
グスターヴ・エッフェル大学
ESIEEパリ・エンジニア学院*
ストラットデザイン学校
パリ国立先端技術学校
- ブルガリア
トラキア大学
- ポーランド
ヤゲロニア大学
ポーランド日本情報工科大学
- ボルトガル
リスボン大学
- ロシア
パンフィック・ナショナル大学
モスクワ大学生物学部*
モスクワ大学土壌学部*

- ドイツ
アーヘン工科大学
ボーエンハイム大学
ボン大学
ミュンヘン工科大学
シュタインバイス大学
ユリウス・クーン研究所
生物学的防除研究所*
- オーストリア
ウィーン獣医科大学
- オランダ
ヴァーヘニンゲン大学
フロニンゲン大学
- スウェーデン
スウェーデン王立工科大学
カロリンスカ研究所*
- スペイン
オビエド大学

MID-EAST 中東

- アフガニスタン
カブール大学
- イラン
タブリーズ大学
- トルコ
アンカラ大学
アンカラ大学農学部※
黒海工科大学
イスタンブール工科大学
チュクロバ大学
エーゲ大学

AFRICA アフリカ

- エジプト
ベンハー大学
- ガーナ
ガーナ大学
- タンザニア
ソコイネ農業大学

UN 国際連合

- 国際連合
国際連合食糧農業機関

協定締結校数

アジア82校、ヨーロッパ49校、
北アメリカ12校、南アメリカ7校、
中東7校、オセアニア4校、
アフリカ3校、国際連合1校
(2024年5月1日現在)

※部局間協定
Inter-departmental
Agreement

10日～2か月間

語学研修 プログラム

英語圏で将来につながる
語学力を身につける

主に英語圏で行う短期の語学研修プログラムです。学部1～3年生が主な対象で、夏季・春季の休暇中に実施されます。派遣先は、アメリカ、ニュージーランド、タイ、マレーシアなど。カリフォルニア大学デービス校など、海外の名門大学のキャンパス内で学ぶチャンスもあります。将来の研究留学につながる語学力をここで身につけます。



10日～2か月間

短期派遣 専門プログラム

現地の農・工業や文化を体験
学生と交流するチャンスも

学生の学びテーマに合わせて、海外の現場視察をするための短期留学プログラム。学部1～3年生が主な対象で、夏季・春季の休暇中に実施されます。派遣先は、アメリカ、ニュージーランド、タイ、マレーシア、ブルネイ、フィンランドなど。現地の農業や文化などを体験できるほか、現地の学生と交流するチャンスもあります。



3か月～6か月間

セメスター派遣 プログラム

現地で履修しながら文化やビジネスを
学ぶ中長期の派遣プログラム

東南アジアをメインとする派遣先で、1学期以上を過ごし、現地の文化やビジネスについて学ぶプログラム。対象は学部3～4年生です。派遣先は、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、ドイツ、フランス、オランダ、イタリア、フィンランドなど。現地でインターンシップを経験できるプログラムもあります。



1か月～1年間

研究留学

海外大学の研究室に所属し
本格的な研究に参加できる

学生が各自の研究テーマに合わせて派遣先を決める本格的な研究留学。学部4年生から大学院修士課程の学生が主な対象で、派遣先は世界各国の大学や研究機関、現地の研究室に所属し、本格的な研究に参加します。研究活動を行うため、一定レベルの英語力が求められます。日本学生支援機構(JASSO)の奨学金を利用した支援も可能です。



1年間～

学位取得

海外の大学で学位を
取得できるプログラム

東京農工大学に在籍しながら、提携大学に留学し、学位を取得できるダブルディグリープログラム。学部4年生から大学院修士課程の学生が主な対象で、期間は原則1年間。派遣先は、アメリカ、イタリア、インドネシアの提携大学など。現地で本格的な研究に従事し、グローバル人材を目指すことができます。



日本国内にいても 「国際力」が身につく

「国際力」を身につけるための取り組みは、キャンパス内でも行われています。2019年度からスタートした新カリキュラムでは、教養教育としての英語科目において「読む・聞く・話す・書く」の4技能をバランスよく伸ばす科目を配置し、英語によるディスカッションやプレゼンテーションなどを行います。また、英語力向上推進プログラムの一環として、TOEFLテスト対策講座を学内に実施し、英語による講義を受講し単位が取得できるレベルの英語力育成を目指しています。その他、留学生とともに学びながら、日本での生活をサポートする学生の活動(パティ・クラブ)が盛んに行われ、英語でのコミュニケーション力やグローバルな視点を培うことにつながっています。

各留学プログラムの
詳細はこちら



留学体験記

学位取得

EUプロジェクトの共同代表として ドイツで「市民科学」の研究を継続中

大学院農学府で修士課程修了後、大学の支援で「学位取得型奨学金」を得て、ドイツ・フンボルト大学ZALF（ライプニッツ農業景観研究センター）の博士課程に留学しました。研究テーマは、市民科学（Citizen Science）です。欧米では市民の科学研究への貢献を分析する市民科学という研究分野が盛んです。私は学部3年次にセメスター派遣でドイツ留学を経験し、この分野を知りました。

ZALFの博士課程では、「野生動物と人間の共存にいかにか市民科学が貢献できるか」というテーマでの博士論文を書き上げました。博士号を取得後、2023年4月から生物多様性の保全を支援する「BiodiverSA+」が資金提供を行うEUプロジェクト「TransWILD」の共同代表としてフンボルト大学でポスト（博士研究員）職に就いています。このプロジェクトでは、ノルウェー、スペイン、イタリア、ブルガリア、ドイツの5か国で、自然保護区域およびその周辺における人間と野生動物の相互作用を生態学的、社会的、政治学的、市民科学的観点から分析し、よりよい共存方法を探っています。

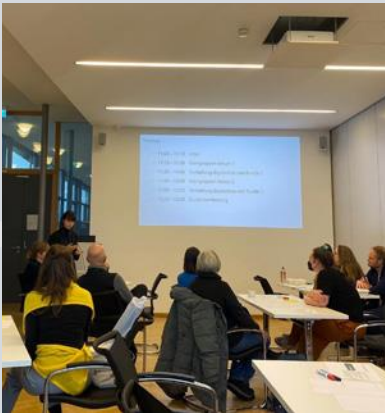
市民科学は、主にアメリカおよびヨーロッパで発展してきましたが、日本には実践における長い歴史があります。8世紀ごろから続く一般市民による桜の開花時期の観測記録は、最古の市民科学プロジェクトの一つとして世界的に有名です。学部及び博士課程における留学経験をもとに、市民科学および自然保護分野に

おける最先端の研究を学ぶことができました。将来的には、これらを日本に還元したいと考えています。近年、研究分野における西洋至上主義が問題視されています。西洋的思考や価値観、知識形態は、全世界のほんの一部に過ぎません。多様な環境問題を抱える現代こそ、西洋的な価値観だけではなく、さまざまな国や文化の視点を取り入れることで、複雑な問題の解決の糸口を見つけれられるのではないかと考えます。日本の自然・文化・歴史が育んだ思考や価値観、知識形態を分析し、世界に発信していくことも研究者としての将来にわたる使命だと思っています。



大学院農学府物質循環環境科学専攻
修士課程修了
宮下絵夢フェリチタス
MIYASHITA, Emu-Felicitas
長野県飯田高等学校出身

プログラム：学位取得留学
留学先：フンボルト大学（ドイツ）
期間：3年（大学院博士課程）



市民科学学会におけるワークショップの様子
©ForumCitizenScience



TransWILDにおけるスペインの研究地であるビレナー山脈の村

教員MESSAGE

短期派遣から長期の研究留学へ 農工大から世界に羽ばたこう！

東京農工大学の留学プログラムの特長は、短期でも実習やファームステイなどを体験できること、長期では連携大学の研究室で本格的な研究に取り組めるプログラムが多いことが挙げられます。在学中に短期派遣→セメスター派遣→長期研究留学と段階的に本格的な留学にチャレンジする学生も多いですね。現地で英語を習得し、帰国後に研究室で留学生と積極的にコミュニケーションをしている学生も多く見かけます。コロナ禍を経て、2023年度夏期からは、短期・長期のほぼすべての留学プログラムが再開しています。学内での留学説明会にも多くの学生が参加しています。留学の夢を実現するため、奨学金獲得など経済的なサポートにもますます

力を入れています。最近特に、長期の研究留学を推奨しており、本学が海外機関と連携して実施する研究プロジェクトに学生たちが参画し、環境配慮型エネルギー、循環型マテリアル開発、食糧生産などに挑戦するようなプログラムを実施しています。農工大には、グローバル社会で活躍するための力を鍛えるさまざまな機会があります。ここから世界に羽ばたいてみませんか？

副学長（国際交流担当）
大津 直子 OHTSU, Naoko



研究留学

無線通信分野をリードする大学で最先端の実験設備に触れた

大学院工学府で周波数利用観測システムの開発に取り組んでいます。学部2年次からフィンランドにあるオウル大学を訪問し、現地の教授と共同研究を進めてきました。このつながりから、博士前期課程2年次にはオウル大学で2か月間の研究留学を経験しました。同大学は無線通信分野において世界をリードする研究機関であり、最先端の実験設備が整っています。また、多くの優れた研究者が在籍している点も留学を決めた大きな理由でした。私にとって最大の目的は、周波数利用観測の実証実験を行うこと、そして国際共著論文を完成させること。これらは無事に前進しており、世界の研究者との人脈をつくることもできました。今後も国際的な研究活動を深め、無線通信分野の研究者になることを目指します。



冬のフィンランドで無線通信の実証実験に挑戦



大学院工学府
知能情報システム工学専攻
博士後期課程2年
劉耀康 LEOW Yau Hong
マレーシア出身
プログラム：研究留学
留学先：オウル大学（フィンランド）
期間：2か月

セメスター留学

タイで資源分野について学び将来の研究に生かしたい！

学部3年次に6か月間、タイのカセート大学に留学しました。資源分野に興味があったので、資源輸出国タイに長期間身を置くことで、将来の研究につながる知識が得られると考えました。留学先では、森林学部の研究室に所属しながら、農学部で熱帯農学を学びました。研究室では、タイの屋台でよく使われる耐熱紙の研究、国産の竹で楽器をつくる研究などに参加。国産竹の研究プロジェクトでは、実際にタイ北部を訪れ、試料採取調査に同行する経験もできました。研究以外では現地NGOを通じて、マングローブ植林のインターンシップを経験しました。アジアで豊かな自然に触れ、地球環境を守ることの大切さを実感しました。将来は、資源・環境分野で国際的に活躍できる人材になりたいです。



国産の竹で楽器をつくるプロジェクトのメンバーと



大学院農学府農学専攻
自然環境資源コース修士課程2年
村井陽香 MURAI, Haruka
私立市川高等学校出身
プログラム：セメスター派遣プログラム
留学先：カセート大学（タイ）
期間：6か月

短期語学留学

比較的低いハードルで貴重な留学経験を得られる

幼少期から海外への憧れはあったのですが、旅行や留学の機会に恵まれませんでした。大学ではぜひ挑戦したいと思い、2年次に約2週間の短期語学留学を決意。留学先としてブルネイを選んだのは、非常に治安がよく海外初心者におすすめだと聞いたからです。また、日本人と同様に、第2外国語として英語を学習している点も魅力的でした。現地の大学では環境プログラムに参加し、森林で珍しい植物を観察したほか、魚の養殖と水耕栽培を組み合わせた栽培方法についても学びました。初めての海外ということで生活面の苦労は多くありましたが、多くの人々の優しさに助けられ乗り越えることができました。比較的低いハードルで貴重な経験を得られるところが、短期語学留学のいいところだと感じています。



ブルネイでは同世代の大学生と交流も



農学部生物生産学科3年
下山慈乃 SHIMOYAMA, Yoshino
愛知県立旭丘高等学校出身
プログラム：語学研修プログラム
留学先：ダルサラーム大学（ブルネイ）
期間：2週間

世界最先端の 研究環境を駆使して 生涯、本気になれる 学びを見つけよう！

東京農工大学は、農学部と工学部からなる日本で唯一の国立大学です。農学とは未来に向かって自然と人のつながりを探究する学問分野。一方、工学はテクノロジーによって、人の生活をより豊かにする新しい世界をつくる学問分野です。「食料」「環境」「エネルギー」「AI」「ロボティクス」「バイオテクノロジー」など、学べる研究テーマは多岐にわたります。地球45億年の歴史の中で培った自然からの学び、ものづくり、AIなどに代表される最新テクノロジーが融合するとき、人類が次に成すべきことは何かを知ることができるのではないでしょうか。

地球レベルの課題に挑む東京農工大学の魅力は、世界最先端の研究環境にあります。世界トップレベルの実験機器が揃う環境を求めて、常に国内外から有力な研究者たちが集まっています。野生動物の研究、感染症の研究、自動運転技術、AIを使った脳波解析など、このキャンパスから常に世界レベルの研究成果が発信されています。さらに、2022年11月には、小金井キャンパスに小金井動物救急医療センターがオープンするなど、最先端の医療に貢献する情報が蓄積される環境も整いました。

グローバル都市・東京の中心に位置する府中・小金井の広大なキャンパスも東京農工大学の大きな強みです。豊かな自然に恵まれながら、都心へのアクセスも良好で、常に国際的な息吹を感じながら学ぶことができます。

真剣に学ぶこと、研究することは、「自由に生きることへの挑戦」です。自分を知り、世界を知り、視野を広げ、自信を持つことで、人は自由になれます。幅広い知識と技術を身につけ自由を手に入れた人は、勇気ある決断をして、行動することができます。そのとき初めて世界を変えるようなイノベーションが生まれるのです。

私たちが目指すのは、授業や研究を通して、学生たちの創造力に火をつけることです。農学・工学の世界レベルの知見が結集するこの場所で、自分の未知の才能を発見してほしい。そして、自由を手にして、グローバルな社会に羽ばたいて行ってほしいと思います。

2024年に東京農工大学は、創基150周年を迎えました。皆さんの自由な創造力が、この大学の次の150年を支えていくことでしょう。

学長 MESSAGE

現在、世界では「持続発展可能な社会の実現」が求められています。東京農工大学では、農学、工学およびこれらの融合領域における教育研究を通して、将来この課題を解決できるような学生を育成しています。

東京農工大学 学長

千葉一裕

1983年、東京農工大学大学院農学研究科農芸化学専攻修士。企業における研究職を経て、1990年より東京農工大学助手、2004年より教授。2014年に副学長（イノベーション担当）、2017年に農学研究院長を経て、現在に至る。東京都出身。

東京農工大学憲章

（抜粋）

基本理念

「持続発展可能な社会の実現」に向けた課題を受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念とする。

教育

科学技術系大学院基軸大学として、豊かな教養・高い倫理観と広い国際感覚を身につけた、共生社会を構築して人類社会に貢献できうる先駆的で人間性豊かな指導的研究者・技術者・高度専門職業人を養成するとともに、その社会的輩出に貢献する。

研究

人類社会の基幹を支える農学、工学およびその融合領域に関わる基礎研究から科学技術に直結する応用研究に至る「使命志向型研究」の遂行により、卓越した新しい知の創造を推進する。また、持続可能な社会の構築に向けた、人と自然が共生するための「科学技術発信拠点」としての役割を果たす。

東京農工大学の沿革

1874年	内務省勸業寮内藤新宿出張所を設置 農事修学場（農学部創基） 蚕業試験掛（工学部創基）
1949年	東京農工大学（農学部・繊維学部）を設置
1962年	繊維学部を工学部に改称
1965年	大学院農学研究科（修士課程）を設置
1966年	大学院工学研究科（修士課程）を設置
1985年	大学院連合農学研究科（博士課程）を設置
1989年	大学院工学研究科（修士課程）を工学研究科（博士前期・後期課程）に改組
1995年	大学院生物システム応用科学研究所（博士前期・後期課程）を設置
2004年	国立大学法人東京農工大学に移行 大学院（農学研究科、工学研究科、生物システム応用科学研究所）を改組し、大学院共生科学技術研究部（研究組織）及び大学院農学教育部、大学院工学教育部、大学院生物システム応用科学教育部（教育組織）に再編
2005年	大学院技術経営研究科（専門職学位課程）を設置

2006年	大学院共生科学技術研究部を大学院共生科学技術研究院に名称変更 大学院農学教育部、大学院工学教育部、大学院生物システム応用科学教育部を大学院農学府、大学院工学府、大学院生物システム応用科学府に名称変更
2010年	大学院共生科学技術研究院を大学院農学研究科及び大学院工学研究院に改組
2011年	大学院技術経営研究科（専門職学位課程）を改組し、大学院工学府産業技術専攻（専門職学位課程）へ再編
2012年	岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科を設置
2016年	グローバルイノベーション研究院（研究組織）を設置
2018年	グローバル教育院（教育組織）を設置 大学院農学府に東京農工大学大学院、岩手大学大学院共同獣医学専攻（4年制博士課程）を設置
2019年	大学院工学府に東京外国語大学、電気通信大学と本学の西東京三大学による「共同サステナビリティ研究専攻」（博士課程）を設置
2024年	創基150周年
2025年	大学院先進学際科学府（修士課程）を設置

東京農工大学の学び

東京農工大学では、学部4年間で研究・教育を履修した後、大学院で専門分野をより深く学ぶことができます。学部から修士課程、博士課程まで続く、学びをイメージしてみましょう。

大学院農学府

Graduate School of Agriculture

博士課程（4年）

- 共同獣医学専攻

大学院連合農学研究科

United Graduate School of Agricultural Science

博士課程（後期3年）

- 生物生産科学専攻
- 応用生命科学専攻
- 環境資源共生科学専攻
- 農業環境工学専攻
- 農林共生社会科学専攻

農学部

The Faculty of Agriculture

学部（6年）

- 共同獣医学科

大学院農学府

Graduate School of Agriculture

修士課程（2年） 農学専攻

- 生物生産科学コース
- 応用生命化学コース
- 自然環境資源コース
- 食農情報工学コース
- 地球社会学コース
- 国際イノベーション農学コース

農学部

The Faculty of Agriculture

学部（4年）

- 生物生産学科
- 応用生物科学学科
- 環境資源科学学科
- 地域生態システム学科

大学院先進学際

Graduate School of Advanced

博士後期課程（3年）

※令和9年度設置予定

- 先進学際科学専攻
- 予測情報学コース
- 融合科学コース

※設置構想中

科学府

Interdisciplinary Science

博士課程（後期3年）

※令和9年度設置予定

- 共同先進健康科学専攻

※設置構想中

修士課程（2年）

※令和7年度設置

- 先進学際科学専攻
- 予測情報学コース
- 資源・エネルギー科学コース
- 食料・環境科学コース
- 健康・福祉科学コース

※現時点では設置に向けた構想中であり、内容を変更する場合があります

大学院工学府

Graduate School of Engineering

博士後期課程（3年）

- 生命工学専攻
- 生体医用システム工学専攻
- 応用化学専攻
- 化学物理工学専攻
- 機械システム工学専攻
- 知能情報システム工学専攻

博士課程（後期3年）

- 共同サステイナ
ビリティ研究専攻

※西東京三大学による
共同専攻

博士前期課程（2年）

- 生命工学専攻
- 生体医用システム工学専攻
- 応用化学専攻
- 化学物理工学専攻
- 機械システム工学専攻
- 知能情報システム工学専攻

専門職学位課程（2年）

- 産業技術専攻

工学部

The Faculty of Engineering

学部（4年）

- 生命工学科
- 生体医用システム工学科
- 応用化学科
- 化学物理工学科
- 機械システム工学科
- 知能情報システム工学科

農学部

農学部は5学科から構成され、農学、生命科学、環境科学、森林科学、人文社会科学、獣医学分野の諸問題の解決と持続的発展が可能な社会の形成に資するため、広く知識を授けるとともに基礎的専門知識を授け、豊かな教養、高い倫理観と国際感覚を具備し、共生社会を構築して人類社会に貢献できる、先駆的で人間性豊かな人材を育成します。

学部長メッセージ



農学・環境分野の社会課題に挑む
国際的な高度専門人材を育成する

齋藤 広隆 SAITO, Hirotaka

農学は、自然科学だけでなく社会科学的なアプローチも必要となる学際的な総合科学です。研究対象も作物生産から農地を取り巻く環境、生物生態系、地域社会、人間の経済活動に至るまで多岐にわたります。東京農工大学農学部は、こうした幅広い分野において、最新の情報技術やデジタルツールを取り入れながら世界をリードする教育・研究を展開しています。農学部のある府中キャンパスは、東京都内にありながら広大な実験園場を有するほか、関東圏内に多くの演習林も備えています。また、海外の大学・研究機関と連携した国際共同研究も積極的に進められています。この実践的な教育環境を生かして、農学や環境に関する地球規模の社会課題を解決できる国際的な高度専門人材を育成したいと考えています。

アドミッションポリシー
(学生受入方針)

地域社会や国際社会における食料・生命・資源・環境に関する様々な問題に関心を持ち、身に付けた知識を生かして主体的に考え、他人と協力・協働して、これらの問題解決に立ち向かう意欲を持つ学生を求めます。

学びの目的・学びの特色

農学部においては、農学、生命科学、環境科学、森林科学、人文社会科学、獣医学分野の諸問題の解決と持続発展可能な社会の形成に資するため、広く知識を授けるとともに専門の学芸を教授し、知的、道徳的および応用的能力を展開させることができる人材を養成することを目的としています。

学科名	学びのキーワード	
生物生産学科	■食料生産 ■スマート農業 ■土壌有機物 ■植物-微生物共生 ■植物栄養生理 ■植物ホルモン	■蚕 ■昆虫利用 ■家畜生産 ■アニマルウェルフェア ■農業経済 ■国際開発
応用生物科学科	■遺伝子組換え ■微生物 ■生体活性物質 ■糖タンパク質 ■バイオテクノロジー ■昆虫	■細胞外マトリックス ■癌細胞 ■免疫・アレルギー ■植物分子育種 ■食品化学 ■ウイルス
環境資源科学科	■土壌・水圏・大気汚染 ■生態系影響 ■マイクロプラスチック ■生元素循環 ■環境浄化 ■環境計測	■バイオマス ■カーボンニュートラル ■木造建築 ■エコマテリアル ■資源リサイクル ■光化学・光触媒
地域生態システム学科	■持続型・循環型社会 ■生産環境基盤・システム ■防災・減災 ■水環境保全 ■環境教育 ■地域資源管理	■自然エネルギー利用 ■人と動物の関係 ■森林計画 ■森林生態系 ■河川生態系 ■リモートセンシング
共同獣医学科	■獣医・畜産 ■解剖・生理 ■薬理・病理 ■公衆衛生 ■感染症・伝染病	■動物繁殖 ■伴侶動物臨床 ■産業動物臨床 ■動物園・水族館 ■食の安全

4年間の学びの流れ (カリキュラム)



工学部

工学部の6学科では、「バイオ/医工系」「エネルギー/環境/マテリアル系」「モビリティ/ロボティクス/コンピュータ/AI系」の3つの専門性を軸に、複数の専門領域を学べるカリキュラムを用意しています。実社会のニーズを反映した分野横断的融合研究に挑戦できる環境です。

学部長メッセージ



「無」から「有」を創り出し、
社会を変革できる人材を育成する

平野 雅文 HIRANO, Masafumi

世界的にエコノミーからエコロジーへの社会変革が急激に進んでいます。東京農工大学工学部は、工学と農学領域の融合によって、食料・カーボンニュートラル・エネルギー・ロボティクス・AI・ライフサイエンスなど時代のニーズを反映した地球規模の課題解決に取り組んでいます。工学部は実学の府でありながら、基礎研究にも力を入れており、学理の解明から社会実装に至るスケールの大きな教育・研究に携わることができる点も魅力だといえます。ここで学友と互いに切磋琢磨し合いながら学問の本質に触れ、「無」から「有」を創り出す経験をしてほしい。そして、自らの研究成果によって社会を変革できる人材を育成していきたいと考えています。

アドミッションポリシー
(学生受入方針)

大自然の真理に対する探究心とモノ作りマインドを持ち、理工学分野の科学技術に関心があり、身につけた知識を生かして主体的に考え、他人と協力・協働して、持続可能な社会の実現に立ち向かう意欲を持った学生の入学を希望します。

学びの目的・学びの特色

工学部においては、工学分野の科学技術に関する基礎および専門知識・技術、専門性を発揮するために役立つ論理的思考力、表現力、そして、多様性を受容する力や協働性を育む教養を学ぶ機会を提供します。主体性を持って人生を切り開いていくために必要な専門性を有するだけでなく、人類が直面している諸課題に対して、多面的に考察して判断し、他者と協働して課題解決に取り組む人材を養成することを目的としています。

学科名		学びのキーワード	
バイオ／医工系	生命工学科	■再生医療 ■バイオインフォマティクス ■バイオセンサー ■抗体工学 ■創薬化学	■植物工学 ■核酸工学 ■バイオナノマテリアル ■マリンバイオテクノロジー ■バイオ燃料電池
	生体医用システム工学科	■医用超音波 ■医用光・電子デバイス ■生体機械 ■生体物理 ■生体機能材料	■バイオメディカルフォトリクス ■ロボット計測システム ■3次元画像 ■光応用計測 ■生体高分子
エネルギー／環境／マテリアル系	応用化学科	■有機合成化学 ■分子エレクトロニクス ■バイオマテリアル ■有機金属化学 ■電気化学	■半導体化学 ■分子触媒化学 ■グリーンケミストリー ■高分子合成化学 ■ナノ医療
	化学物理工学科	■化学工学 ■物理工学 ■エネルギー変換 ■低環境負荷・高効率生産システム	■新素材創製 ■光エレクトロニクス ■量子技術・ナノ材料 ■環境技術・計測デバイス ■大規模シミュレーション
モビリティ／ロボティクス／コンピュータ／AI系	機械システム工学科	■ロボティクス ■スマートモビリティ ■航空宇宙工学 ■熱流体工学 ■生産システム	■先端材料 ■知能機械 ■マイクロ・ナノシステム ■計算工学
	知能情報システム工学科	■人工知能 ■信号処理 ■バーチャルリアリティ ■モーションコントロール ■電磁波	■通信工学 ■計算機ネットワーク ■パターン認識 ■計算機アーキテクチャ ■マイクログリッド

4年間の学びの流れ (カリキュラム)



農業をあらゆる角度から研究し、人類を支える「食」の明日を担う生物生産学科。農業生産は環境の保全にも重要な役割を果たしており、再生可能なバイオマスエネルギーの供給源としても期待されています。



21世紀の食料と 食の安全を科学する

研究室 PICKUP



准教授 | 安達 俊輔
ADACHI, Shunsuke

ミッションは作物の安定多収の実現 機械学習を用いた光合成予測などにも挑戦中

作物学のミッションは、主食・飼料・工業目的で使用される作物の安定多収の実現です。これは、イネ、ムギ、ダイズ、トウモロコシなどの土地利用型作物の収穫量の増大や品質の安定性の実現を指します。実現する手段として、新たな栽培技術の開発や品種育成などが挙げ

られます。研究室では、作物の葉の光合成に焦点を当て、その生理メカニズムの解明や遺伝子の解明に取り組んでいます。機械学習を用いた光合成能力の予測技術の開発、ベンチャー企業との光合成測定装置の共同開発など新たな挑戦も積極的に行っています。

本学科が目指すもの

遺伝・発生・酵素反応など生物学の基礎から、光合成・養分吸収など生物生産機能の解析、群落構造・家畜飼養管理など生産プロセスの解析と技術開発、生産物の品質評価、生産物の流通・消費システムなど、多岐にわたる内容が体系的に構成されています。

学年	専門科目			
	学科共通科目	生産環境系科目	植物生産系科目	動物生産系科目
4 年次	卒業論文			
3 年次	農業微生物学 農産物製造学 生物生産学英語入門 アグリバイオ実験 学外実習（農家） 学外実習（研究所） 卒業論文	土壌環境学 作物保護学	園芸学II 植物育種学	家畜飼養学 家畜繁殖学 家畜育種・管理学 蚕糸学 昆虫利用学 家畜衛生学
2 年次	生化学 農業分野専攻実習 生物生産学実験基礎	土壌学 植物栄養・肥科学	植物生態生理学 作物学 園芸学I	農業昆虫学I 家畜形態・生理学 農業昆虫学II
1 年次	生物生産学原論 情報処理・生物統計学	作物栽培学 フィールド実験実習I フィールド実験実習II	植物生理学 植物分子遺伝学	畜産学総論

学年	専門科目	
	農業経営経済系科目	新領域科目
4 年次		生物生産学特別講義I 生物生産学特別講義II 天然物有機化学 有機合成化学 微生物生化学
3 年次	農業市場学 国際農業開発論 農業数量経済分析 農業資源経済学 農業経営経済学総合演習 農村社会調査実習	生物生産学特別講義I 生物生産学特別講義II 食料リスクアナリシス 遺伝子細胞工学
2 年次	農業経済学 農業経営学 食料システム経済学	
1 年次		

農産物の生産から消費まで、人と自然を結びつける「農の営み」に関連する学問分野を幅広くカバーし、日本および世界の農業を広く深く理解するとともに、農業に関わる最先端の科学と技術に関する知識を身につけます。そして、その知識を国内外農業の持続的発展、農産物の流通・加工・消費、農業の多面的機能の積極的利用などに活かすことのできる人材の養成を目指しています。

カリキュラム

生物生産学科の学び

生産環境系	農業生産技術学/土壌学/植物栄養学/国際生物資源学
植物生産系	園芸学/作物学/植物育種学/遺伝子細胞工学
動物生産系	畜産学/動物生化学/昆虫機能生化学/蚕学
農業経営経済系	農業経済学/農業経営・生産組織学/農業市場学/国際地域開発学

卒業後の主な進路

- 農林水産省
- 東京都
- 神奈川県
- 和歌山県
- 熊本県
- 北海道
- 日清フーズ
- 日本アクセス
- ヤンマーホールディング
- 湘南ゼミナール
- 日清オイリオグループ
- タイヘイ
- サカタのタネ
- クボタ化水
- パナソニック・インダストリアル・マーケティングアンドセルス
- リーフス
- スガノ農機
- よつ葉乳業 など
- 進学
- 東京農工大学大学院
- 東京大学大学院 など

大学院進学後の主な進路

- 農林水産省
- 農業・食品産業技術総合研究機構
- 産業技術総合研究所
- 昭和女子大学
- パナソニックシステムソリューションズジャパン
- NTTデータアイ
- アサヒビール
- JSOL
- 山崎製パン
- 日本製紙クレシア
- 船昌商事
- PwCあらた有限責任監査法人
- 日本ニュートリション
- 全国農業協同組合連合会
- タケショー
- 日本工営
- 進学
- 東京農工大学大学院連合農学研究科

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科・農業）
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



白田 乃々香
HAKUTA, Nonoka
大学院農学府農学専攻
生物生産科学コース修士課程2年

カイコが卵の状態ですぐ死ぬ原因遺伝子を同定し、 チョウ目昆虫全体の謎の解明に挑む！

所属する蚕学研究室では、カイコのさまざまな突然変異について研究しています。私のテーマは、「胚致死形質を引き起こすカイコ発育遅延D遺伝子の同定」です。これは、カイコが卵の状態ですぐ死ぬ現象に関わる遺伝子で、その時期が孵化の直前であることからどのようなメカニズムな

のか非常に興味があります。実験では複数の候補から原因遺伝子を絞り込んでいきます。その過程に未知の発見に近づく面白さを感じます。実験の成果がチョウ目昆虫全体の謎の解明につながる可能性もあり、大学院で引き続き研究を続ける予定です！



「生命」に未知の可能性を求めて 人類の発展に貢献する

化学と生物学を基盤とし、分子から細胞、個体、さらにはその相互作用まで一連の現象を解明・応用することで「生命」の未知なる可能性を解明し、人類に有益な生命科学の発展に貢献することを目的として研究を行っています。

研究室 PICKUP



准教授 | 小松 健
KOMATSU, Ken

植物の病気の原因とメカニズムを解明 分子生物学的なデータ解析にも挑戦できる

専門は、植物の病気の原因とそのメカニズムを突き止める「植物病理学」です。植物の病気は、感染症を持つ菌・細菌・ウイルスなどによって引き起こされます。現在取り組む研究は、病気の原因の診断と同定から診断法の開発、病原体の性状解析とゲノム解析、病原

体を抑える方法の調査と提案など多岐にわたります。細胞内の微生物やタンパク質の動きを見るミクロの研究から生態学的なマクロ現象を見る研究までスケールも多彩です。最近は、分子生物学的なデータ解析を扱う実験も多く、統計・解析のスキルも身につきます。

本学科が目指すもの

微生物、動物、植物などの生命機能を、化学・生物学を基盤として深く探究・理解することを目指します。バイオテクノロジーでは、バイオサイエンスの成果を食品・医薬・農薬をはじめとする生活関連有用物質の高度な生産に適用することを目指としています。バイオサイエンスとバイオテクノロジーの分野で活躍するための教育を行い、人類の発展に貢献できる人材を育成します。

カリキュラム

化学と生物学を基盤として分子レベルから個体群に至る一連の生命現象を理解することで、ライフサイエンスの発展に貢献するとともに社会的ニーズに応えられる人材の育成を目的としています。

学年	学科専門科目		学部共通専門科目
4 年次	生物統計学 科学英語論文演習Ⅰ 科学英語論文演習Ⅱ 卒業論文	国際展開力科目Ⅰ 国際展開力科目Ⅱ	共通科目 海外研修科目 国際農学科目
3 年次	生体高分子化学 遺伝子工学 応用微生物学 食品化学Ⅱ 栄養化学 植物病理学 応用昆虫学 細胞工学 植物工学	食品工学 食品製造学 食品衛生学 農薬科学 応用生物科学専門実験Ⅱ 応用生物科学専門実験Ⅲ 応用生物科学専門実験Ⅳ 応用生物科学専門実験Ⅴ 応用生物科学専門実験Ⅵ	
2 年次	有機化学Ⅲ 生化学Ⅱ 分析化学 分子細胞生物学 動物生理学 有機合成化学 微生物生化学 天然物有機化学 機器分析化学 食品化学Ⅰ 生物相関学 バイオロジカルコントロール 応用生物科学共通実験Ⅰ 応用生物科学共通実験Ⅱ 応用生物科学専門実験Ⅰ		
1 年次	情報処理学 有機化学Ⅰ 生化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 分子生物学 植物生理学 植物保護学 農場実習		

応用生物科学科の学び

分子生命化学	生物化学/遺伝子機能制御学/発酵学/植物工学/遺伝子工学/動物細胞生物学
生物機能化学	生物制御化学/生態情報化学/生物有機化学/食品化学/栄養生理化学/応用蛋白質化学/食品機能学/応用植物生化学
生物制御学	植物病理学/応用昆虫学/応用遺伝生態学/分子環境生物学/細胞分子生物学/相関分子生物学

卒業後の主な進路

学部卒	●東京化成工業 ●カネボウ化粧品 ●資生堂 ●トヨタ自動車 ●横浜市 ●明治 ●森永製菓 ●協和発酵キリン ●日本たばこ産業 ●中外製薬 ●日本化学工業	●東京化成工業 ●カネボウ化粧品 ●資生堂 ●トヨタ自動車 ●クミアイ化学工業 など
進学	●東京農工大学大学院 ●東京大学大学院 ●京都大学大学院 など	

大学院進学後の主な進路

修士	●花王 ●北興化学工業 ●積水化学工業 ●日産化学 など
博士	●東北大学 ●日本大学 ●第一三共 ●森永乳業 ●キュービー ●東京化成工業 など

取得できる免許・資格

- ☒ 食品衛生監視員・管理者（任用資格）
- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科・農業）
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



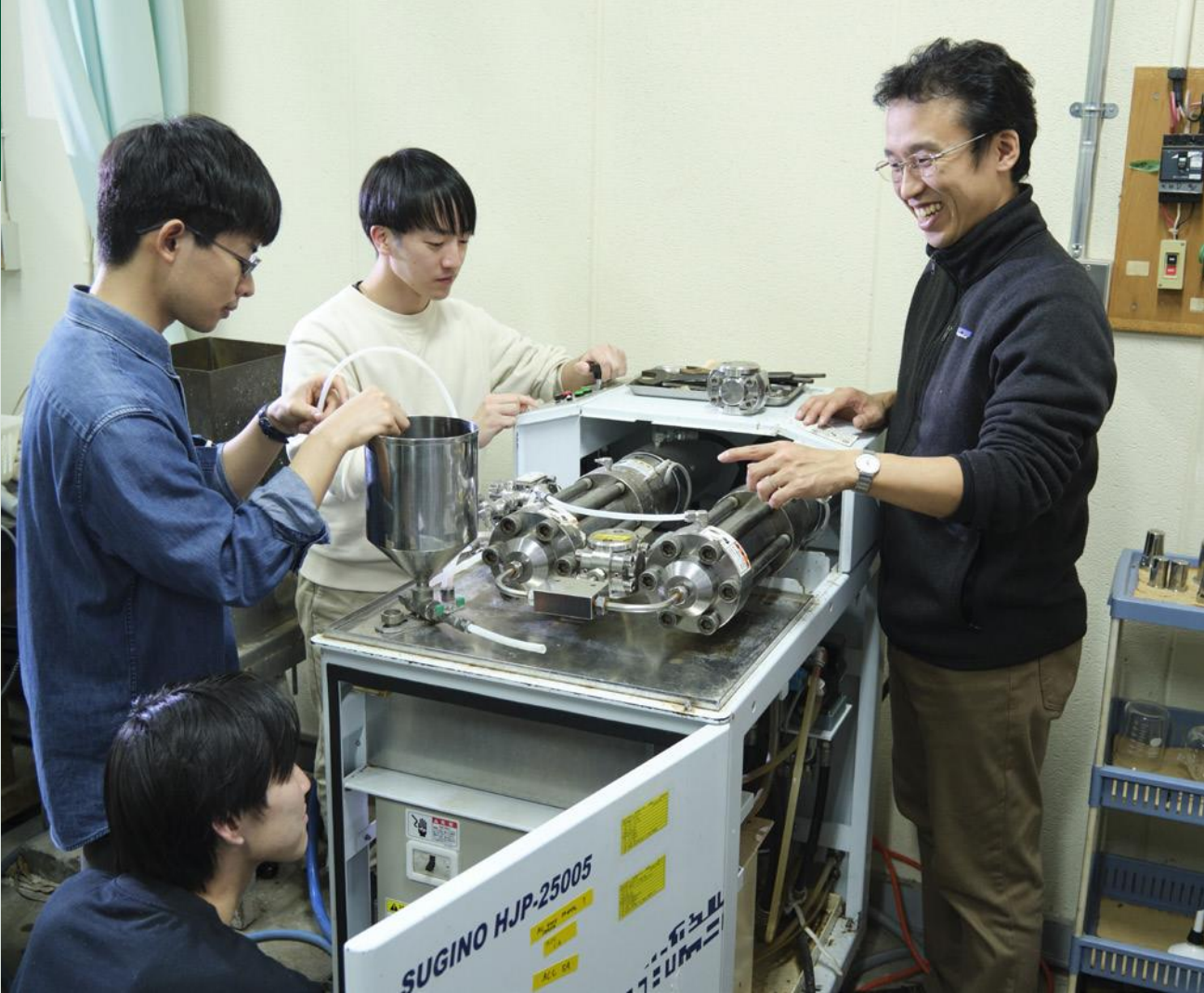
高塚 彩英
TAKATSUKA, Sae

大学院農学府農学専攻
生物生産科学コース 博士課程1年
静岡県立静岡高等学校出身

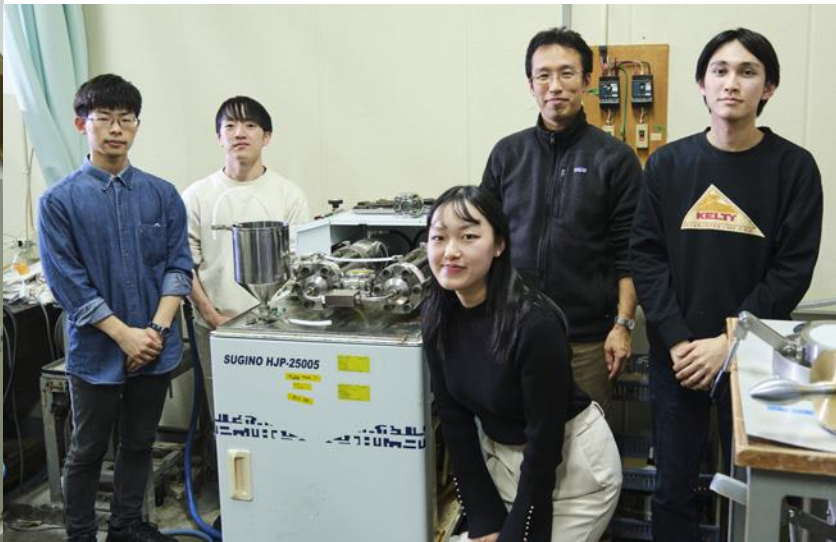
オオバコモザイクウイルス増殖に相互作用する 宿主植物の蛋白質を同定し、機能を解明する

植物ウイルスは自身の複製のために宿主植物の蛋白質やその機能を利用します。そこで、宿主植物側の蛋白質を特定できれば、ウイルス増殖の機構や仕組みの解明につながります。現在は、植物ウイルスの一種オオバコモザイクウイルスが宿主植物の細胞内の膜構造を変形させて複製の拠点とする際に相

互作用するタンパク質の同定を行っています。これは「植物病理学」と呼ばれる研究分野になります。応用生物科学科の授業で、植物と病原体の攻防に興味を持ち、現在の研究室を選びました。身に付けた技術や知識を生かせる研究職に就くのが目標です。



環境と資源の問題にメスを入れる 「地球の医学」を学ぶ



研究室 PICKUP



准教授 | 小瀬 亮太
KOSE, Ryota

環境負荷の少ない紙材料に新たな機能を付与する

環境にやさしい材料として、紙・板紙に注目しています。例えば、高強度の板紙を開発できれば、デジタル機器の筐体などにも使えるでしょう。板紙はプラスチックなどの素材に比べて環境負荷が少ないだけでなく、手触りが心地よいという感性工学的な特性もあります。私は、紙の原料であるパルプ繊維のサイズを変えて、新たな機能を付与する研究を行っています。

その代表といえるのが、パルプを原料とした「セルロースナノファイバー」の研究です。これはパルプ繊維をナノサイズに微細化したもので、高強度で耐水性も高い紙材料を実現できます。また、研究に付随して、微細なセルロース繊維の形態・サイズを評価する技術の確立にも取り組んでいます。研究を通じて、紙・板紙の可能性を広げたいと考えています。

本学科が目指すもの

環境問題は、人類すべてに共通する深刻な課題です。限りある化石燃料に依存した大量生産、大量消費、大量廃棄によって支えられてきた私たちの豊かさは、21世紀初頭の今、曲がり角を迎えています。環境資源科学科では、これからの人類が地球環境と調和して持続的に生きていくための環境資源科学を推し進め、環境問題の解決や循環型社会の構築に貢献できる人材を育成します。

カリキュラム

環境問題に対して、社会的ニーズに即した理解・行動ができる人材を育成します。環境と資源の広範囲な問題を対象とした生物学、化学、物理学、地学を基礎として広い知識を習得し、実験・実習・講義を組み合わせた多彩なカリキュラムで学びます。

学年	専門科目	
	学科基礎科目	学科専門科目
4 年次		科学英語論文講読 卒業論文
3 年次	代謝生化学 機器分析学I 水溶液化学 資源高分子物理学 環境資源有機化学 木質資源物理学 樹木生態生理学 微生物生理生態学 森林実習 機器分析学II 環境情報解析学 環境気候学 環境資源科学実験III(生物学応用) 環境資源科学実験IV(地学)	生分解学 森林資源利用学 森林資源形成学 環境植物学 紙パルプ科学 住環境構造学 ライフサイクルアセスメント 資源分解・廃棄学 森林・林業論 環境アセスメント学
2 年次	環境資源熱力学 森林資源科学 環境資源科学実習B 物質生化学 資源材料力学 化学結合論 環境資源科学実験I(物理学応用) 環境資源科学実験II(化学応用)	大気化学 木質資源化学 陸水環境学 環境毒性学 資源高分子化学 植物組織形態制御学 エコマテリアル学 環境土壌学 環境汚染化学 環境微生物学 生態系生態学 環境分子生物学 環境資源科学特別講義I 環境資源科学特別講義II 環境資源科学特別講義III 環境資源科学特別講義IV
1 年次	情報処理学 地球化学 生態系管理学 環境資源科学実習A 環境分析化学 環境計測学	住環境学 資源リサイクル学 地圏環境学 大気環境学 海洋環境学

環境資源科学科の学び

環境資源科学	環境物質科学/環境汚染解析/生物圏 変動解析/環境修復/植物環境/生活 環境/バイオマス・リサイクル
--------	--

卒業後の主な進路

- 東京都
- 埼玉県
- 千葉県
- 横浜市
- 特許庁
- 農業・食品作業技術総合
研究機構
- 全国農業協同組合連合会
- 東京中央農業協同組合
- 長野森林組合
- 大建工業
- 北越コーポレーション
- 清水建設
- 大東建託
- 内田洋行
- クボタ環境サービス
- 中外テクノス
- 石垣
- アジア航測
- 日立製作所
- 富士通 など
- 進学
- 東京農工大学大学院 など

大学院進学後の主な進路

- 環境省
- 農林水産省
- 東京都
- 科学技術振興機構
- 産業技術総合研究所
- 住友林業
- 王子ホールディングス
- 日本製紙
- レンゴー
- 大建工業
- 永大産業
- クボタ環境サービス
- アジア航測
- 大日本コンサルタント
- オルガノ
- アジレント・テクノロジー
- キヤノン
- 日立製作所
- 大日本印刷
- 東洋水産
- 三菱鉛筆
- 伊藤園
- ゆうちょ銀行 など
- 進学
- 東京農工大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許(理科)
- ☒ 高等学校教諭1種免許(理科・農業)
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



須田 春香
SUDA, Haruka

大学院農学府農学専攻
自然環境資源コース 修士課程2年
愛知県立江南高等学校出身

森林の炭素固定量を推定するため調査を続ける

スギやヒノキといった樹木の光合成速度などを調査し、森林の炭素固定量を推定することが私の研究テーマです。樹木ごとの相違点を深掘りすることで、気候変動の予測や植樹活動において新たな発見をもたらすことができます。年間を通じてフィールドワークに取り組んでおり、測定のために高い木に登ることもあります。

実際に自然に触れ、葉の形状などを近くで観察できるところが研究の魅力です。自然を相手にするという点で困難も多くあります。木は日々成長しているため、同じデータは2度と手に入りません。どんな時でも柔軟に対応できるよう、事前の計画を綿密に立てておくことが重要です。将来は大学で学んだ多様な知識を活用し、環境問題の解決に関わりたいと考えています。

地域生態システム学科 ECOREGION SCIENCE

森林、農村、都市などを含む空間をひとつの「地域」として捉え、そこに広がる生態系や生産・社会に着目した新しい研究を展開。自然環境と人間社会の生産活動が共存する地域環境空間の設計に挑戦します。

定員

76名



生態系と資源の保全のために 地球規模で考え、地域で行動する



研究室 PICKUP



教授 | 赤坂 宗光
AKASAKA, Munemitsu

データを駆使して、生物多様性の保全を推進する

生物多様性の保全のために「どこ」で「何を」すべきかを多様な方法と学際的な視点で検討しています。用いる手法やツールは、生態調査、アンケート調査、人流データ解析、空間データ解析など。各種データを駆使した科学的なアプローチを用いるのが特徴です。「景観生態学」と呼ばれる研究分野になります。

フィールドワークでは、高山域で登山者に対する

アンケート調査を行うと同時に、靴の付着物を採取し、そこに含まれる種子の発芽実験を行ったりします。室内実験と屋外調査を組み合わせた研究は特色のひとつです。また、ドローンで撮影した画像を用いた植物分布の分析などにも取り組んでいます。生物多様性の保全を推進する方法を学びながら、統計分析や空間データ分析のスキルも鍛えることができます。

本学科が目指すもの

生態系と資源の保全・管理・活用などさまざまな問題を解決する社会の在り方を考え、野生動物や自然植生、森林・緑地・農地、農林業や農山村文化の新しい役割、人間と自然の調和を地域から地球的スケールで考えることを目的としています。広い視野で、実際のフィールドに立って問題を研究し、ボトムアップ型の思考でその解決を図ることのできる人材の育成を目指します。

カリキュラム

自然・応用科学から人文・社会科学にわたるさまざまな科目群をパッケージとして提示しています。そのパッケージの積み上げによって専門性を深め、学生一人ひとりの個性に合わせた教育を行い、さらに多彩な実習による実践的学習も可能にしています。

学年	専門科目			
	学科共通科目	パッケージ科目・推奨科目	実験・実習科目	
4 年次	地域生態システム学特別演習Ⅱ 地域生態システム学特別演習Ⅲ インターンシップ 卒業論文	持続的森林管理論 作物栽培学		
3 年次	地域生態システム学セミナー 地域生態システム学特別演習Ⅰ インターンシップ	比較心理学 農村社会論 健康アメニティ論 動物環境生理学 リモートセンシング論 森林施設工学 砂防工学 森林立地学 農地環境工学 環境地盤工学 生物生産環境学 農用原動機学 野生動物管理技術論 熱工学 力学Ⅱ 農業環境物理学 環境教育学	環境倫理学 比較行動学 国際協力論 農業市場学 景観生態学 森林施業論 森林政策学 木質資源利用学 ライフサイクルアセスメント 環境アセスメント学 農産プロセス工学 灌漑排水工学 生態水理学 共生社会思想 国際農林開発論 森林保護学 植生管理学	育林学実習 山地保全・砂防計画学実習 樹木学実習 農業環境工学実験 農業環境工学実習 農村地域計画学演習 野生動物保全学実習 比較行動学実験・実習 森林保護・樹木医学実習 森林土壌学実験・実習 森林生産システム学実習 農業環境工学演習 農業環境工学設計
2 年次	地域生態システム学Ⅲ インターンシップ	測量学 森林生態学 水文学 環境土壌物理学 農業経済学 造園学 自然誌学 空間情報学 土壌生態管理学 森林計画学 山地保全学 森林生産システム学 地域社会調査法 GISの基礎と演習 樹木学 力学Ⅰ	土質力学 水理学 農村地域計画学 農業技術論 応用解析・情報学 環境哲学 環境文化史 環境公法 環境経済学 農業経営学 動物生態学 共生福祉論 野生動物保全学 環境生理生態学	基礎測量学実習 地域社会システム調査実習 森林計画学実習 空間情報学実習 山地測量学実習 植生管理学実習 自然体験活動実習 学部共通専門科目
1 年次	地域生態システム学Ⅰ 地域生態システム学Ⅱ 地域生態システム学実習Ⅰ 地域生態システム学実習Ⅱ フィールド安全管理学 情報処理学	生物多様性保全学 水資源管理論 地域社会システム計画論 人と動物の関係論 動物福祉論		

学生の声



小林 千夏
KOBAYASHI, Chinatsu

大学院農学府農学専攻
自然環境資源コース修士課程1年
東京都立三田高等学校出身

外国人登山者の外来植物持ち込みの実態を調査

研究テーマは、「ヒトによる外来植物の意図しない持ち込みの実態把握」です。外来植物の種子は、ヒトの靴や衣類に付着して移動することがあります。中でも登山者は、自然地域の奥深くに外来植物を持ち込む可能性が懸念されています。そこで私は、海外からのインバウンド登山者の外来植物持ち込みの実態を明らかにしようと考え、富士山五合目でアンケート調査を行いました。

質問内容は主に登山靴の使用履歴や外来生物に対する考え方について。登山靴の付着物を採取し、研究室に持ち帰って分析および発芽実験も実施しました。外来植物は持ち込まれた先で、在来植物の存在を脅かすほか、景観の価値低下などの経済被害も引き起こします。今後も国際的な生態系保全に貢献するための調査や実験に取り組んでいきます。

地域生態システム学科の学び

生態系保全学	景観生態学/野生動物保護管理学/植生管理学/健康アメニティ科学/FSセンター野生動物保護管理
森林科学	森林土壌学/森林生態学/森林生物保全学/森林水文学/森林環境工学/森林－人間系科学/森林計画学/森林利用システム学/森林資源管理学/山地保全学/森林－水圏生態学
農業環境工学	生産環境システム学/生産環境制御学/地水環境工学/耕地栽培システム学/エネルギー利用学/農村地域計画学/農業情報工学/水資源計画学/地域空間情報学/水利用学/施設構造工学
共生持続社会	環境哲学/農村社会学/比較心理学/環境文化史/環境公法学/国際関係学/環境情報科学/環境教育学/共生福祉論

卒業後の主な進路

- 農林水産省
- 国土交通省
- 環境省
- 林野庁
- 東京都
- 埼玉県
- 千葉県
- 国際農業者交流協会
- 農業生産法人こと京都
- エルゴテック
- 独立行政法人都市再生機構
- サンスイコンサルタント
- メーブル
- 東京ガス
- ネットワンシステムズ
- エコパが合同会社
- エーコープ関東
- 大和証券
- アニコム損害保険
- NTCコンサルタンツ
- モノリス
- 千葉興業 など
- 進学
- 東京農工大学大学院
- 京都大学大学院
- 九州大学大学院
- 東京都立大学大学院
- 東京大学大学院
- 名古屋大学大学院 など

大学院進学後の主な進路

- 農林水産省
- 国土交通省
- 環境省
- 林野庁
- 都道府県庁
- 森林研究・整備機構
- 水資源機構
- 日本農産工業
- ユニ・チャームペットケア
- 農業新聞
- 構造計画研究所
- 日立製作所
- 日鉄日立システムソリューションズ
- 住友林業
- 野生動物保護管理事務所
- 山と溪谷社 など
- 進学
- 東京農工大学大学院連合農学研究科 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 測量士補
- ☒ 測量士（要実務経験）
- ☒ ビオトープ管理士
- ☒ 自然再生士補
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科・農業）
- ☒ 森林情報士
- ☒ 自然体験活動指導者
- ☒ 樹木医補
- ☒ 博物館学芸員 など

共同獣医学科

伴侶動物の健康と福祉の向上、野生動物の保護などを通じて、人間の健康や心の豊かさ、生活環境にも深く関わっています。共同獣医学科では、動物の疾病の治療や予防、その研究を通じて生命科学の進歩に貢献しています。

定員
35名
6年制



動物と人の未来のために 高度獣医療技術を習得する



研究室 PICKUP



准教授 濱部理奈
HAMABE, Lina

犬・猫の心疾患とがんの相互作用を調べる

「腫瘍循環器学」という医療分野の研究を行っています。これは、心疾患とがんの間に存在する因果関係を明らかにすることを目的とした研究です。特に心疾患ががんの進行に与える影響の解明、がんが心疾患を悪化させるメカニズムの解明が目標となります。近年、犬・猫などの長寿化が進み、動物医療の現場でも心疾患とがんが増加し、両方を併発

する症例も増えています。そこで、これらの疾患を早期診断するための心臓超音波検査や血液検査の手法、抗がん剤治療による心疾患への悪影響などについて研究を行っています。東京農工大学は、動物医療センターがあることから、臨床に基づいた研究テーマをより深く追究できる場所が強みです。研究成果を臨床にフィードバックすることが目標です。

本学科が目指すもの

岩手大学と緊密な教育連携を行い、平成24年度から東日本の獣医学拠点として共同獣医学科に改組しました。現在、東京農工大学には「動物医療センター」と「感染症未来疫学研究センター」、岩手大学には「動物病院」と「動物医学食品安全教育研究センター」があります。家畜衛生や公衆衛生分野における獣医師養成と、高度獣医療技術の習得を目指しています。

カリキュラム

ベースとなる動物の疾病の診断・治療と予防を学び、関連領域の知識や技術を習得。その後、学年が進むにつれて臨床・応用科目へと進んでいきます。5年次からは、少人数制の研究室に所属し卒業論文制作と、獣医師国家試験合格を目指します。

学年	専門教育科目			
	基盤獣医学科目	実証獣医学科目	選択科目	専修科目
6年次			インターンシップ 海外実習	卒業研究
5年次	内分泌病・皮膚病学 代謝病・中毒学 血液免疫病学 神経病・運動器病学 泌尿器病・生殖器病学 臨床薬理学 臨床腫瘍学 臨床栄養学 画像診断学 画像診断実習	眼科学 総合参加型臨床実習Ⅰ 総合参加型臨床実習Ⅱ 総合参加型臨床実習Ⅲ 総合参加型臨床実習Ⅳ 大動物臨床実習・基礎編 大動物臨床実習・応用編 総合参加型臨床実習Ⅴ 総合参加型臨床実習Ⅵ 公衆衛生実践実習	インターンシップ 海外実習	卒業研究
4年次	獣医事法規 動物感染症学 家禽疾病学 魚病学 動物病理学各論B（他臓器・組織） 病理学実習Ⅱ 毒性学 毒性学実習 食品衛生学 食品衛生学実習 公衆衛生実践実習	呼吸器病・循環器病学 消化器病学 麻酔学・手術学 軟部外科学 小動物内科学実習・基礎編 小動物内科学実習・応用編 小動物外科学実習・基礎編 小動物外科学実習・応用編 動物行動治療学 繁殖機能制御学 臨床繁殖学 繁殖機能制御学実習 臨床繁殖学実習 産業動物臨床学Ⅰ 産業動物臨床学Ⅱ 馬臨床学	食品安全管理学 動物病院経営学 インターンシップ 海外実習	獣医学演習
3年次	内分泌学 獣医代謝生化学 生化学実習 基礎薬理学 統合薬理学 薬理学実習 病原微生物学 微生物学実習Ⅱ 免疫学 原虫・原虫病学 蠕虫・蠕虫病・衛生動物学 寄生虫学実習	動物病理学総論 動物病理学各論A（主要臓器） 病理学実習Ⅰ 公衆衛生学総論 疫学 人獣共通感染症学 環境衛生学 公衆衛生学実習 動物衛生学 動物衛生学実習 野生動物学 公衆衛生実践実習	内科学総論 外科学総論 臨床病理学	インターンシップ 海外実習 動物品種論 国際感染症制御学
2年次	運動器・神経系解剖学 内臓・脈管系解剖学 解剖学実習 組織学 組織学実習 統合生理学 器官制御生理学 生理学実習	獣医遺伝育種学 動物行動学 実験動物学実習 基礎放射線学 獣医基礎生化学 微生物学総論 微生物学実習Ⅰ	人と動物関係学 動物園動物学	
1年次	獣医学概論 獣医倫理 発生学			

学生の声



橋詰穂乃香
HASHIZUME, Honoka
農学部共同獣医学科6年
都立国際高等学校出身

新しい分野を切り拓いていく瞬間がやりがい

私が取り組んでいるのは、オルガノイドとオーガンオンチップシステムに関する研究です。オルガノイドとは、複数種の細胞からなる三次元組織体です。実際の動物組織に近い性質を利用し、病理解析などに応用されています。私の研究では、体内における体液の循環を再現するオーガンオンチップシステムと、犬の組織から作成したオルガノイドを組み合わせることで、高精

度で犬の体内の構造・機能を再現し、抗がん剤開発などに役立てることを目指しています。オルガノイドもオーガンオンチップシステムも比較的新しい技術であり、獣医学領域における先行研究は多くありません。工学分野の専門家や企業の方など多様な人々と協力しながら新しい分野を切り拓いていく日々、充実感を感じています。

共同獣医学科の学び

基礎獣医学	獣医解剖学/獣医生理学/動物行動学/獣医薬理学
病態獣医学	獣医病理学/獣医微生物学/獣医伝染病学
応用獣医学	獣医毒性学/獣医衛生学/獣医公衆衛生学
臨床獣医学	獣医内科学/獣医分子病態治療学/獣医外科学/獣医画像診断学/獣医臨床繁殖学/獣医臨床腫瘍学/比較動物医学

卒業後の主な進路

- 厚生労働省
- 農林水産省
- 埼玉県
- 茨城県
- 横浜市
- 特別区競馬組合
- 警察庁科学警察研究所
- 大原薬品工業
- 大正製薬
- 興和
- 生化学工業
- 科研製薬
- アステラス製薬
- 北海道中央農業共済組合
- 千葉県農業共済組合
- 東レ
- オリンパス
- ヤクルト本社
- アニコム損害保険
- 日本中央競馬会
- 阪大微生物病研究会
- 日本生物科学研究所 など
- 進学
- 東京農工大学大学院
- 東北大学大学院
- 大阪大学微生物病研究所 など

取得できる免許・資格

- ☒ 獣医師国家試験受験資格
- ☒ 食品衛生監視員（任用資格）
- ☒ 食品衛生管理者（任用資格）
- ☒ 環境衛生監視員（任用資格）
- ☒ 飼料製造管理者（任用資格） など



健康社会に貢献する 先端生命工学研究に挑む



研究室 PICKUP



教授 | 津川 裕司
TSUGAWA, Hiroshi

データサイエンス技術を用いて「代謝」の謎に迫る

システムバイオロジー研究室では、「代謝」について多角的な視点から分析を行っています。代謝は生命活動の中枢を担っており、その仕組みを理解することは植物のCO₂固定やヒトにおけるウイルス感染時の生体防御機構の解明など、幅広い社会的課題の解決に貢献できる可能性を秘めています。研究で用いるのは、生物学、分析科学、そして情報科学の知見。この3軸から代

謝の謎に迫ることで、新たな生命現象やその動作原理を明らかにすることが研究のコンセプトです。特に情報科学に関しては、研究室内で数学とプログラミング技術を活用した独自のデータサイエンス基盤を構築しており、一度に解析可能な代謝物数の向上や新しい代謝物の発見に日々注力しています。研究室から世界的に認められる成果を生み、ノーベル賞を受賞することが目標です！

本学科が目指すもの

生命工学科は、生命に関連する科学技術全てを包含するため、極めて多彩な学問領域を取り扱います。これらの学問領域の基礎知識を網羅的に習得した上で、最先端の技術力、論理的な思考力・実行力および国際的コミュニケーション能力を身につけた、あらゆる生命工学分野のニーズに即応して活躍できる国際的な技術者・研究者を養成します。

カリキュラム

1・2年次は専門基礎科目で生命現象の基礎知識を習得します。2年次後期からは専門科目で高度かつ最新の知識を提供。また2・3年次を通して実験・実習が組まれています。3年次後期から研究室に配属され、卒業論文のテーマを設定し、最先端の研究を行います。

	専門科目		
	専門基礎科目	専門科目	
4 年次		◎生体機能工学演習Ⅰ・Ⅱ ◎応用生物学演習Ⅰ・Ⅱ ◎生体機能工学実験Ⅰ・Ⅱ	◎応用生物学実験Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文
3 年次		◎生命工学の最先端 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ◎生命科学英語Ⅱ ◎生命技術英語Ⅰ・Ⅱ ○免疫学・抗体工学 ○生理医学 ○細胞再生工学・細胞医学 ○ナノバイオエンジニアリング ○脳神経学 ○ケミカルバイオロジー	○バイオプロセスエンジニアリング ○食品・医薬品開発工学 ○医療・組織工学 ○レギュラトリーサイエンス ○応用生体電子工学・応用微生物学 ○応用ゲノミクス ◎生命工学実験Ⅲ・Ⅳ ◎生命工学研究概論 ◎研究室体験配属
2 年次	○バイオコンピューティング・ バイオインフォマティクス基礎 ○バイオ統計学・ アドバンストバイオインフォマティクス ○物理学Ⅲ ○生命物理化学Ⅰ・Ⅱ ○生命有機化学Ⅱ ○生命分析化学 ○生命無機化学 ○機器分析学 ○生命化学Ⅱ ○分子生物学Ⅱ ○細胞生物学Ⅰ・Ⅱ ◎生命倫理・安全管理 ◎ライフサイエンス基礎演習Ⅰ・Ⅱ	◎生命科学英語Ⅰ ○蛋白質・核酸科学 ○植物工学・蛋白質工学 ○先端機器分析学 ○環境バイオテクノロジー・分子細胞工学 ○バイオセンシング ○メディカルケミストリー ○マリンバイオテクノロジー ◎生命工学実験Ⅰ・Ⅱ	
1 年次	○統計学 ◎化学基礎 ◎物理学基礎 ○物理学Ⅰ・Ⅱ ◎生物学基礎 ◎基礎生物化学 ◎微生物学 ◎基礎生物学実験	◎生命工学入門・ 医工学入門 ○生命有機化学Ⅰ ○生命化学Ⅰ ○分子生物学Ⅰ 〈工学部共通〉 線形代数学Ⅰ 微分積分学および演習Ⅰ 線形代数学Ⅱ 微分積分学および演習Ⅱ 地学 地学実験	

◎印の科目は必修、○印の科目は選択必修

生命工学科の学び

生体機能工学	細胞機能工学/生命分子情報科学/ 生体分子構造学/細胞分子工学/植物 情報工学/バイオビジネス/ナノ生命 工学
応用生物学	生命分子工学/海洋生命工学/生体 電子工学/分子生命化学/生命有機 化学/生命環境工学

卒業後の主な進路

- 第一三共
 - 田辺三菱製薬
 - 興和
 - 東和薬品
 - 積水メディカル
 - ニプロ
 - テルモ
 - ユニ・チャーム
 - 日本たばこ産業
 - 日清オイログループ
 - 雪印メグミルク
 - キュービー
 - 理研ビタミン
 - ヤクルト本社
 - 丸大食品
- エステー
 - 日本曹達
 - 東洋インキSCホールディングス
 - NTTデータ
 - 東芝
 - シャープ
 - プリテストーン
 - オリパス
 - ライオン など
- ### 進学

 - 東京農工大学大学院
 - 東京医科歯科大学大学院
 - 東京大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 博物館学芸員

科学、生命科学、工学などの分野が融合した世界最先端の生命研究を行っています。日本の大学で初めて設置された生命工学科であり、生命現象の仕組みを理解し、それを応用して暮らしに役立つものを生み出すことを追究し続けています。

定員

81名

学生の声

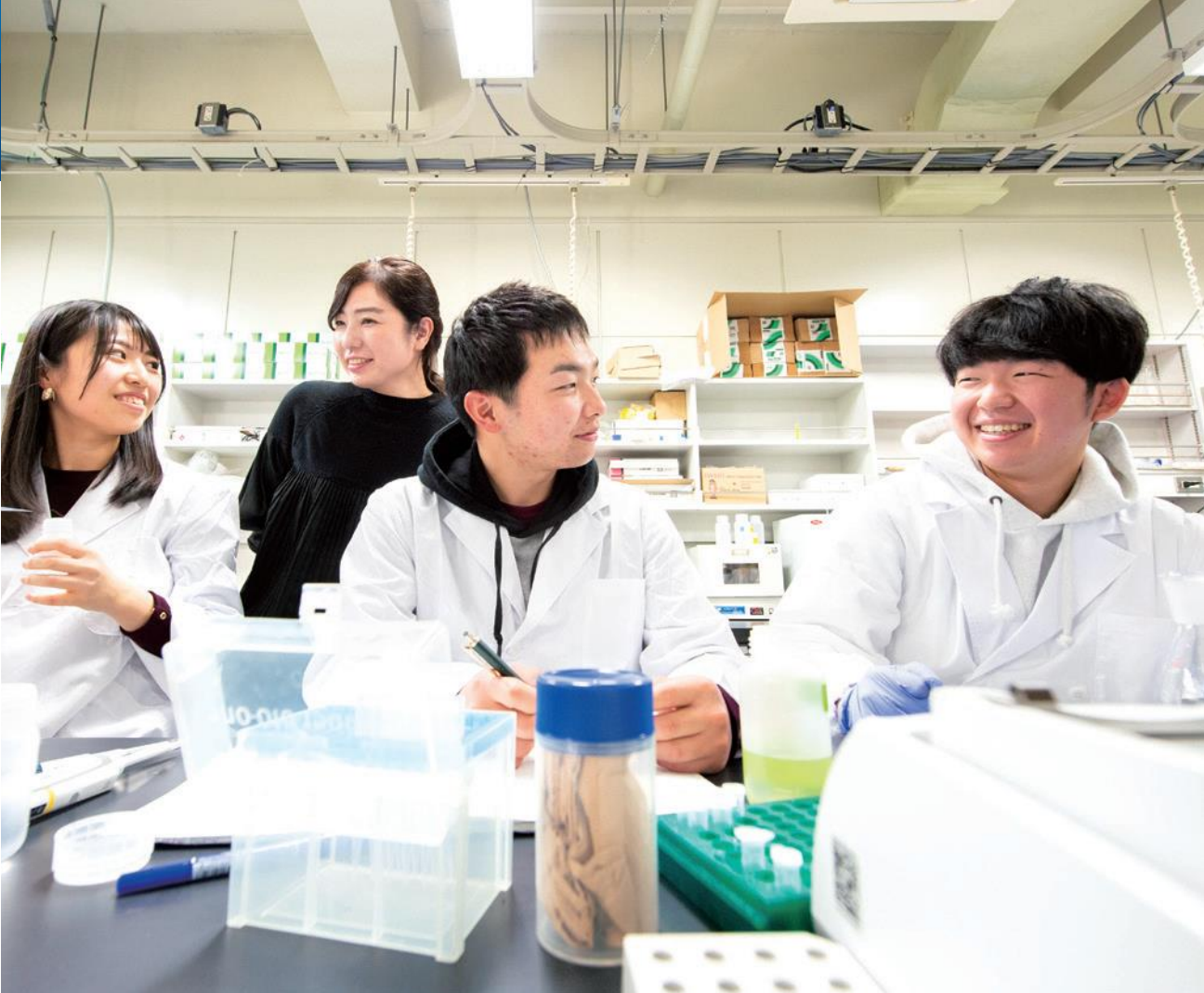


倉田 明咲
KURATA, Misaki
大学院工学府 生命工学専攻
博士前期課程1年
私立大妻高等学校出身

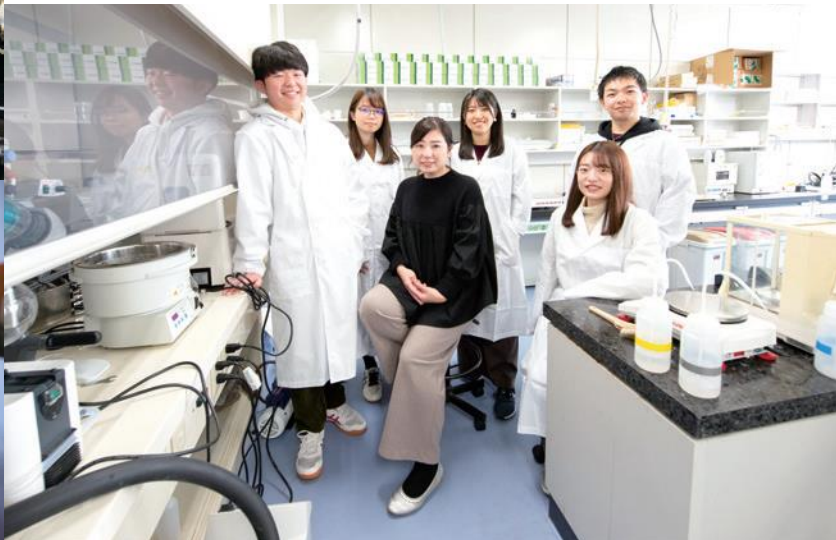
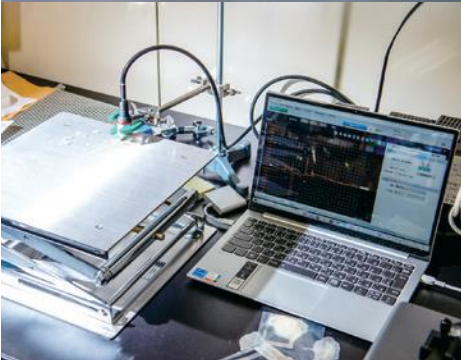
情報の本質を見極めるデータサイエンティストになりたい

情報科学の視点から、代謝によって生じた物質の内容や増減を解析しています。各質量分析によって得られたデータには、間違いが含まれていることがあります。そこで、プログラミングや統計学を駆使し、誤りが発生する確率の予測や、それをコントロールするための理論構築を行うことが私の主な役割です。以前は日常で起こるさまざまな現象について、「大体これくらいだろう」という推

測をしていました。しかし、それらを確率分布として数式に表せることを知り、統計学に興味を持ち始めました。今後の目標は、現在の研究における成果を形にすることです。将来はデータの奥に潜む本質を冷静に見極め、先入観に惑わされることなく精度の高い情報を導き出せるデータサイエンティストになりたいです。



物理学＋電子情報工学を学び、 未来の医療技術を創る



研究室 PICKUP



准教授 | 赤木 友紀
AKAGI, Yuki

血管内狭窄治療への応用を目指した 光応答性薬剤担持型バルーンを開発

心筋梗塞などの原因となる血管内狭窄の治療システムを開発しています。具体的には、「バルーンカテーテル」と呼ばれる特殊な医療器具を医療機関で共同でつくっています。血管内治療において、このバルーンを血管の中を通して狭窄部位まで送達し、そこで拡張させることで、血管内皮に薬剤を投与します。そ

の際、患部以外の場所に薬剤が放出されることは避けなければなりません。そこで、当研究室では、光照射によって薬剤の放出をコントロールするシステムを考案し、概念実証に成功しています。工学で医療に貢献するバイオエンジニアリングの可能性が広がっています。

本学科が目指すもの

さまざまな生体機能を細胞、遺伝子、分子・原子レベルで理解し、医用に資する革新的な計測・分析技術の創成を行います。さらに、医療現場における医療診断のニーズを踏まえた工学のシーズ応用を目指す教育研究を通して、国際社会をリードする研究者・技術者の養成を目指します。

カリキュラム

低学年次では、数学、物理学、生物学等に加え、医療機器や計測・診断技術のしくみにかかわる専門基礎科目について学びます。高学年次には、医療応用にかかわる医用フォトニクス、医用超音波工学、医用デバイス工学、医用メカトロニクス等について学びます。

	専門科目		
	専門基礎科目		専門科目
4 年次			◎生体医用システム工学特別演習Ⅰ・Ⅱ ◎生体医用システム工学特別実験Ⅰ・Ⅱ ◎卒業論文
3 年次			○病理学・薬理学 ○生体医用工学Ⅱ ○生命倫理 ○化学物理 ○材料力学 ○光エレクトロニクス ○量子技術概論 ○医用超音波工学 ○医用メカトロニクス ○生体機能工学 ○医用計測・機器 ○流体力学 ○生体フォトニクス ○医用デバイス工学 ◎生体医用システム工学実験Ⅱ ◎研究室体験配属
2 年次	数理統計学 ◎電磁気学Ⅱおよび演習 力学Ⅱ 熱統計力学 振動・波動 ◎プログラミングⅡおよび演習	◎電気回路 電子回路 生物学 ◎生体医用工学Ⅰ	計測・制御 医用画像工学 AI入門 科学英語ゼミ 抗体免疫学 臨床医学基礎Ⅰ・Ⅱ 生化学 特別ゼミⅡ ◎生体医用システム工学実験Ⅰ
1 年次	◎工学基礎数学 工学応用数学 化学基礎 ◎生物学入門 ◎力学Ⅰ ◎電磁気学Ⅰおよび演習 ◎プログラミングⅠおよび演習 ◎臨床医学概論 生理学	〈工学部共通〉 線形代数学Ⅰ 微分積分学および演習Ⅰ 線形代数学Ⅱ 微分積分学および演習Ⅱ 地学 地学実験	特別ゼミⅠ

◎印の科目は必修、○印の科目は選択必修

生体医用システム 工学科の学び

生体情報計測システム/生体医用フォトニクス/生体医用光学/半導体量子科学/生物物理学/光エレクトロニクス

卒業後の主な進路

- GEヘルスケア・ジャパン
 - キヤノン
 - 日立製作所
 - ニデック
 - 花王
 - エプソン
 - 島津製作所
 - 横河電気
 - パイオニア
 - 本田技研工業
 - ヤマハ発動機
 - 日本電気
 - アンリツ
 - 三菱電機
 - 住友電気工業
 - 東京ガス
 - 清水建設
 - 大成建設
 - 中国電力
 - 日本音響エンジニアリング
 - オリンパス
 - ソニー
 - コニカミノルタ
 - トプコン
 - シスメックス
 - パナソニック
 - 東京エレクトロン
 - 横河計測
 - トヨタ自動車
 - 日産自動車
 - 富士通
 - NTTデータ
 - ダイキン工業
 - 村田製作所
 - 官公庁 など
- 進学
- 東京農工大学大学院
 - 他大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 博物館学芸員

学生の声



稲村 文行
INAMURA, Fumiyuki

大学院工学府 生体医用システム工学専攻
博士後期課程3年
私立芝浦工業大学柏高等学校出身

電波と光の狭間の新しい光源開発に挑む！

遠赤外光～中赤外光帯域は、電波と光の中間に位置する領域です。幅広い分野での活用が期待されていますが、その性質の特殊性から長年にわたって発展途上の研究領域となっています。この領域において使用できる光源（遠赤外・中赤外レーザー）をつくり出すことが、私の研究の目的です。先行研究から、通常の半導体で形成される等間隔の準位において遠赤外・中赤外レーザーを実現

することは非常に困難であることがわかっていました。そこで、炭素原子1層のグラフェンという物質が磁場を加えたときに形成する非等間隔の準位に着目。研究の成果により、グラフェンからの赤外発光を確認することができました。これを応用することにより、今後はグラフェンを用いて波長可変な中赤外光源の開発を進めたいと考えています。

化学は物質の構造や機能を理解し、新しい物質を創り出す分野です。本学科では原子から高分子に至る幅広いスケールの化学物質の構造や機能などを対象とし、様々な分野において活躍できる独創性や応用力を身に付けた人材を育成します。

定員

81名



物質の構造や機能を理解し、 新しい物質・材料の創出へ



研究室 PICKUP



教授 | 中野 幸司
NAKANO, Koji

二酸化炭素を用いてプラスチックを開発 有機合成化学で環境にやさしい「ものづくり」

有機合成化学、有機高分子化学を基盤とした「有機機能性材料」の創製に取り組んでいます。つまり、有機化学を用いた「ものづくり」です。研究の柱のひとつは、二酸化炭素を用いたプラスチック開発です。枯渇する化石燃料の代わりに自然に豊富に存在する二酸化炭素を使ってプラ

スチックをつくることができれば、環境にやさしいのは言うまでもありません。実験では二酸化炭素由来プラスチックの化学合成をするための金属触媒の開発や新しい機能を付加した材料の開発にも取り組みます。化学メーカーなど企業との共同研究も盛んです。

本学科が目指すもの

原子から高分子に至る幅広いスケールの化学物質の構造や機能などを、講義、実験、研究の対象としています。有機化学、無機化学、物理化学、高分子化学等の基礎科目から、半導体化学、エネルギー化学、触媒化学、バイオ材料化学、高分子物性等の応用科目まで習得します。このように化学や材料科学の基礎から応用まで学ぶことによって、多様な化学・材料科学の領域や、化学と環境・食品・医薬等との境界・融合領域において活躍できる研究開発力が身につきます。

カリキュラム

化学に関する幅広い科目を無理なく着実に学習できるカリキュラムが用意されています。1～3年次の各学年には実験科目がバランス良く配置されており、卒業研究は研究室において化学の最先端領域の研究指導を受けられる体制が整えられています。

	専門科目		
	専門基礎科目	専門科目	
4 年次		◎卒業論文 ◎応用化学セミナーⅠ ◎応用化学セミナーⅡ	
3 年次		統計力学 構造化学 分子分光学 エネルギー化学 化学工学 高分子物性Ⅰ 高分子物性Ⅱ 物性化学 セラミック化学 半導体化学	機器分析Ⅱ 有機化学Ⅴ 有機工業化学 有機金属化学 高分子化学Ⅱ 生体材料化学Ⅱ ◎論文・文献講読 ◎応用化学実験Ⅲ ◎応用化学特別実験 ◎研究室体験配属
2 年次	物理化学Ⅱ 反応速度論 量子化学Ⅰ ◎物理化学演習 無機化学Ⅱ 無機化学Ⅲ ◎無機化学演習 有機化学Ⅲ ◎有機化学演習 材料電磁気学 光学基礎 生体材料化学Ⅰ 環境物質化学概論	量子化学Ⅱ 機器分析Ⅰ 有機化学Ⅳ 高分子化学Ⅰ ◎応用化学実験Ⅰ ◎応用化学実験Ⅱ	
1 年次	◎応用化学入門 ◎物理化学Ⅰ ◎無機化学Ⅰ 分析化学 ◎有機化学Ⅰ 有機化学Ⅱ 力学概論 振動・波動の物理 ◎科学基礎実験	〈工学部共通〉 線形代数学Ⅰ 微分積分学および演習Ⅰ 線形代数学Ⅱ 微分積分学および演習Ⅱ 地学 地学実験	化学英語

◎印の科目は必修

応用化学科の学び

応用化学

分子変換化学/光電子材料化学/分子設計化学/無機固体化学/電子エネルギー化学/分子触媒化学/有機・高分子物理化学/有機・高分子素材化学/有機・高分子物性化学/バイオ高分子材料/超分子・分子集積構造材料

卒業後の主な進路

- アステラス製薬
- クラレ
- クレハ
- コニシ
- 住友化学
- 積水化学工業
- 東ソー
- 豊田合成
- 日産化学
- 三井化学
- 三菱ガス化学
- 三菱ケミカル
- JXTGエネルギー
- JSR
- プリチストン
- 横浜ゴム
- 富士紡ホールディングス
- 日本製紙
- 日本軽金属
- 三菱マテリアル
- 日野自動車
- 本田技研工業
- GSユアサ
- デンソー
- 日本精工
- キヤノン
- パナソニック
- 富士電機
- リコー
- TOPPANホールディングス
- ぺんてる
- キュービー
- 雪印メグミルク
- 東洋製罐
- 日本ゼオン など
- 進学
● 東京農工大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



富田 雄介
TOMITA, Yusuke

大学院工学府 応用化学専攻
博士後期課程3年
私立開成高等学校出身

「遷移金属化学」に魅了され大学院へ。 将来は創薬の仕事に携わりたい！

学部3年次に「遷移金属化学」という研究分野を知り、医薬品などを構成する物質をつくる基盤研究として、金属触媒を用いた有機化合物の合成に可能性を感じました。2010年にノーベル化学賞を受賞した根岸英一・鈴木章先生の研究も遷移金属化学の分野なのだと驚いた記憶があり

ます。現在は、遷移金属を触媒として化学原料のアセチレンとブタジエンを反応させ、2つの環により構成されたビシクロ化合物を合成する研究に挑戦中。研究成果をまとめた論文がアメリカ化学会の学術誌に掲載され、励みになりました。将来は創薬分野で活躍したいです。



化学と物理の知識をベースに 持続可能な社会を実現する

研究室 PICKUP



教授 | ウレット・レンゴロ
Wuled LENGGORO

「微粒子工学」から多様に派生し地球規模の課題を解決

地球規模の幅広い課題の発見と解決に貢献できる点が化学物理工学科の魅力です。エネルギー、新素材、環境という3つの軸を中心に、化学工学、物理工学（応用物理）、電気電子工学、機械工学分野をカバーする、世界的に見てもオンリーワンの学科であるといえるでしょう。私の研究室では「微粒子工学」を起点に、物質・流体・熱の移動現象、化学プロセス、生物システムという

異なる領域を横断した研究を展開し、農学部や企業と連携もしています。設定した目的に応じて研究装置を自分たちの手で製作することもあり、世界初となる最先端の成果も数多く生まれています。研究過程において自己決定力と豊かな知識と技術を育んでいます。今後も引き続き多様性のあるグローバルな目標を持って、新技術の開発に取り組むことを目指しています。

本学科が目指すもの

エネルギー・環境等の地球規模の課題を解決し、新産業を創出する課題解決力を身につけるには、化学と物理の総合的理解が必要です。本学科では、総合的理解が必要な課題、例えば「新素材を用いた高効率・低環境負荷のエネルギー変換デバイスの開発」など、社会的ニーズが高い課題に挑戦する高度グローバルエンジニアを育成します。化学・物理の総合理解という社会からの要請が強く反映された、他大学には存在しないオンリーワンの学科で学びましょう。

カリキュラム

化学、物理などの基礎科目および、化学工学と物理工学をバランス良く履修するカリキュラムです。専門科目ではエネルギー、新素材、環境、量子の4つのキーワードを重視し、科目群を用意しています。研究室配属により実践的な課題解決力を身につけます。

	専 門 科 目		
	専 門 基 礎 科 目		専 門 科 目
4 年 次			プロセスデザイン工学 ◎卒業論文
3 年 次	科学技術英語 ○工業熱力学		○エネルギープロセス工学 電子物性工学 エネルギー変換工学 エンジニアリング製図演習 画像情報工学 科学技術者倫理 ○環境工学 インターンシップ バイオプロセス工学 反応工学 環境計測工学 ◎化学工学実験 ○電気電子材料工学 先端化学物理工学 光エレクトロニクス 化学物理工学プロジェクト 高分子工学 応用化学工学 ◎物理工学実験 ◎研究室体験配属
2 年 次	微分方程式I 微分方程式II ベクトル解析 数理統計学 生物化学 分析・機器分析化学 振動・波動	有機化学 ○移動現象論および演習 ○電気回路 ○電磁気学および演習 ○量子力学および演習 ○システム工学基礎 ○熱統計学演習	プロセスシステム工学 ◎先端化学物理工学概論 ◎化学物理工学先端プロジェクト演習 ◎化学物理工学実験I・II 反応速度論 拡散分離工学 電磁波工学 電子回路 電子量子デバイス工学
1 年 次	◎力学および演習 ○物理学基礎II ◎化学基礎 ○化学物理基礎 ○生物学基礎 ◎化学物理数学および演習 ◎化学物理工学入門	○情報プログラミング 情報応用プログラミング ○無機化学基礎 ○有機化学基礎 ○ケミカルエンジニアリング基礎 《工学部共通》 線形代数学I 微分積分学および演習I 線形代数学II 微分積分学および演習II 地学 地学実験	

◎印の科目は必修、○印の科目は選択必修

化学物理工学科の学び

化学物理工学

化学工学/応用物理学/化学エネルギー工学/環境バイオエンジニアリング/反応工学/分離工学/物性工学/異相界面工学/プロセスシステム工学/量子機能工学/光電子材料工学/電子機能集積工学/量子過程工学/量子光工学/エネルギーシステム工学

卒業後の主な進路

- 三菱ケミカル
- 富士フイルム
- 日産自動車
- 花王
- 出光興産
- キャノン
- キューピー
- 千代田化工建設
- 住友化学工業
- 東ソー
- ブリヂストン
- コニカミノルタ
- AGC
- TDK
- 日揮
- NOK
- 高砂熱学工業
- 東洋インキ
- 日本化薬
- ユニチカ
- 三菱化工機
- 荏原製作所
- 大気社
- TOPPANホールディングス
- クレハ
- 王子製紙
- オルガノ
- 富士ゼロックス
- 日立製作所
- 日本電気
- 島津製作所
- 横河電機
- トヨタ自動車
- パナソニック
- 三井化学
- 積水化学
- 東洋エンジニアリング
- 中学・高校・大学教員
- 官公庁 など
- 進学
- 東京農工大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（理科）
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



小林聖弥
KOBAYASHI, Seiya

大学院工学府化学物理
工学専攻修士2年
茨城県立並木中等教育学校出身

「煤粒子」の熱伝導特性を分析し新たな活用方法を模索

有機物が燃焼する際、副産物として発生する「煤」が、私の研究対象です。煤粒子は身近な微粒子のひとつで、一般的には空気汚染物質として知られています。しかし、その特性を活かせば有用な材料としての可能性も秘めています。私はこの煤をどのように有効活用できるかを模索しています。研究において大切にしているのは、手を動かすということ。ひたすら試行錯誤を繰り返し、「これだ！」

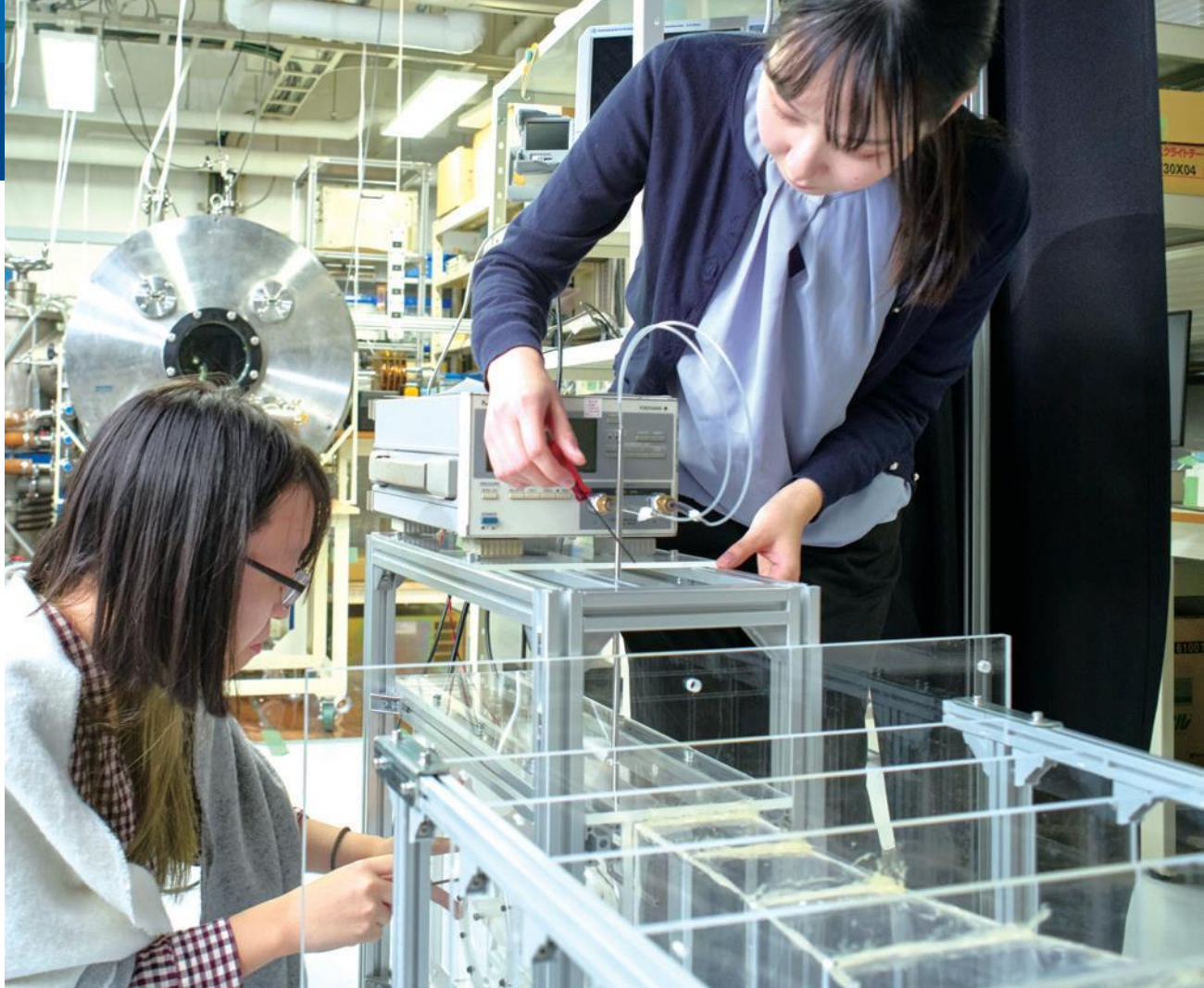
と手応えを感じる瞬間がやりがいです。

現在着目しているのは、キャンドルから得られる煤の熱伝導特性について。煤粒子を液体に分散させた懸濁液を作成し、物体間の熱エネルギーを効率よく交換する「熱交換器」に応用する研究を進めています。世界で誰も明らかにしていないテーマに挑むスケールの大きさがこの研究の魅力です。

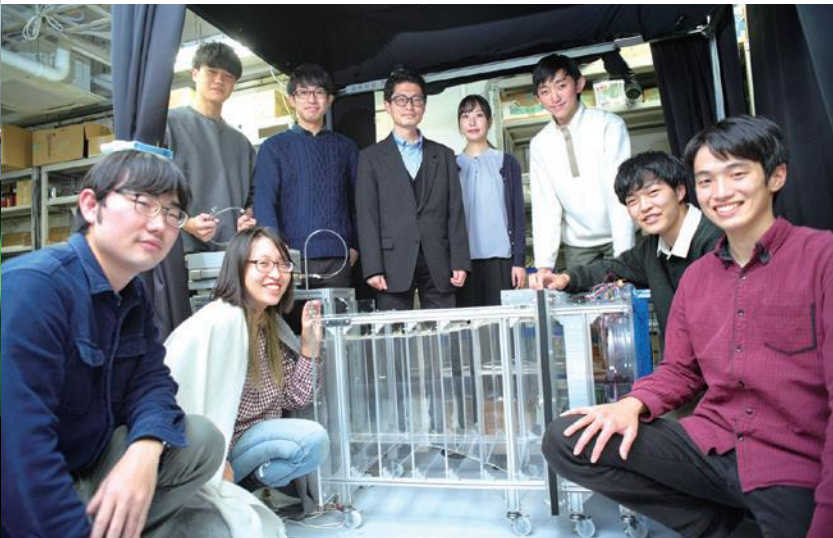
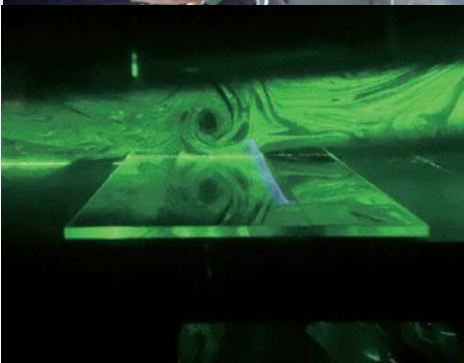
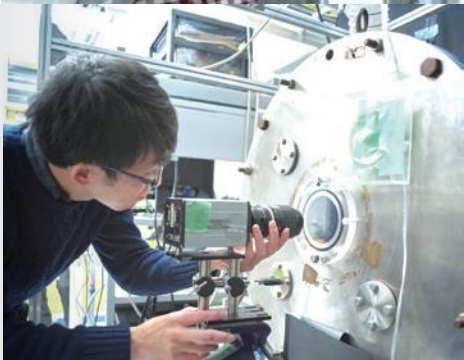
最先端の工作機械を用いた実験や実習を行い、ハードウェアからソフトウェアまでの幅広い分野を研究対象としています。これらの研究を通して、環境と調和した、時代を超える次世代のハイパーマシンを創造します。

定員

102名



ハードとソフトを融合し 人類の未来を拓く技術を実現する



研究室 PICKUP



教授 | 西田 浩之
NISHIDA, Hiroyuki

プラズマによって空気の流れを操作し、 流体機械の性能向上に貢献したい

私の研究対象は「空気力学」と「プラズマ」です。プラズマは放電によってつくり出せる物質で、その特性を利用すると物体の周りには空気の流れを操作することができます。例えば、航空機や車といったモビリティの空気抵抗低減や、風車やタービンの発電効率改善など、

流体をエネルギーに変換する機械の性能アップに応用できるのです。私はプラズマから空気に力が伝わるメカニズムの解明に取り組みながら、さまざまな流体機械への実用化を目指しています。この技術を通して、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えています。

本学科が目指すもの

スマートモビリティ、デジタルものづくり、ロボティクス・ナノメカニクスという3つの軸を中心に幅広い機械系専門分野のダイバーシティをカバーする学科です。基礎となる力学、制御、数値解析、プログラミング、材料、設計、加工、精密計測、電子工学などを体系的に学び、「航空宇宙・機械科学」「ロボティクス・知能機械デザイン」の2コースで、機械エンジニアとしての根幹を深く太くし、スペシャリティの枝葉を伸ばし広げることができます。

カリキュラム

機械力学、熱工学、流体力学、材料工学などの機械製作に欠かせない知識と技術を身につけ、幅広く基礎を習得。2年次後学期から「航空宇宙・機械科学」と「ロボティクス・知能機械デザイン」の2コースに分かれ、興味のある科目を重点的に学ぶことができます。

	専門科目			
	自然科学基礎科目 (数学)(科学)	専門基礎科目	専門科目	
			航空宇宙・機械科学コース	ロボティクス・知能機械デザインコース
4 年次		科学技術英語	◎卒業論文	
3 年次	数理統計学 統計力学系解析 量子力学概論	工学倫理	塑性力学 伝熱学Ⅱ 構造材料評価法 トライボロジー 数値流体力学および演習 機械材料工学Ⅱ 宇宙推進工学 航空宇宙流体力学 有限要素法および演習 ガスタービン	機械設計Ⅱ 生産加工学Ⅱ 計測・信号処理工学 ロボット工学 MEMS 車両工学 生産システム工学 人間科学計測法 振動制御および演習 メカトロニクスおよび演習
			○流体力学Ⅱ ○宇宙制御工学 ○CAD演習	◎機械システム工学実験Ⅲ ◎研究室体験配属 ○機械システム特別研究Ⅱ
2 年次	微分方程式Ⅱ ベクトル解析 関数論 電磁気学 化学基礎 生物学基礎 連続体力学	流体力学Ⅰ 機械材料工学Ⅰ 制御工学Ⅰ 機械設計Ⅰ 伝熱学Ⅰ 生産加工Ⅰ	弾性力学	機械電子工学Ⅱ 光工学
			※2年次後学期から2コース制に移行	
1 年次	微分方程式Ⅰ 力学Ⅰ 力学Ⅱ 〈工学部共通〉 線形代数学Ⅰ 微分積分学および演習Ⅰ 線形代数学Ⅱ 微分積分学および演習Ⅱ 地学 地学実験	◎基礎ゼミ 機械システムデザイン 材料力学Ⅰ 熱工学Ⅰ 機械力学Ⅰ 機械電子工学Ⅰ	◎材料力学Ⅱ ○熱工学Ⅱ ○機械力学Ⅱ ○制御工学Ⅱ ◎機械システム設計製図	
			◎機械製図法 ◎機械システム特別研究Ⅰ	

◎印の科目は必修科目、○印の科目は両コース共通専門科目

機械システム工学科の学び

エネルギーシステム解析/流体力学/機械材料学/材料力学/弾塑性解析/機械要素解析/機械システム設計/熱流体システム設計/車両システム工学/精密計測工学/制御システム/機械電子工学/生産システム工学/機械解析幾何学/機械解析代数学/メカノフォトニクス/メカノビジネス/宇宙工学/スポーツサイエンス

卒業後の主な進路

- IHI
- JFEスチール
- 日本電気
- NTTデータ
- いすゞ自動車
- オークマ
- オリパス
- カシオ計算機
- マレリ
- カワダロボティクス
- サームス
- シチズン時計
- SUBARU
- セイコーエプソン
- ソニー
- ダイハツ工業
- テルモ
- デンソー
- パナソニック
- ファナック
- フジクラ
- ブラザー工業
- プリヂストン
- マツダ
- ミクニ
- ヤフー
- リコー
- 安川電機
- 伊藤忠テクノソリューションズ
- 横河電機
- 古河電気工業
- 三菱重工業
- 三菱電機
- 鹿島建設
- 住友電気工業
- 小松製作所
- 日本製鉄
- 積水化学工業
- 川崎重工業
- 竹中工務店
- 電源開発
- 東京ガス
- 東京電力ホールディングス
- 日揮
- 日産自動車
- 日本コロムビア
- 日野自動車
- 日立金属
- 日立製作所
- 富士通ゼネラル
- 本田技研工業 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許(理科)
- ☒ 高等学校教諭1種免許(理科)
- ☒ 博物館学芸員

学生の声



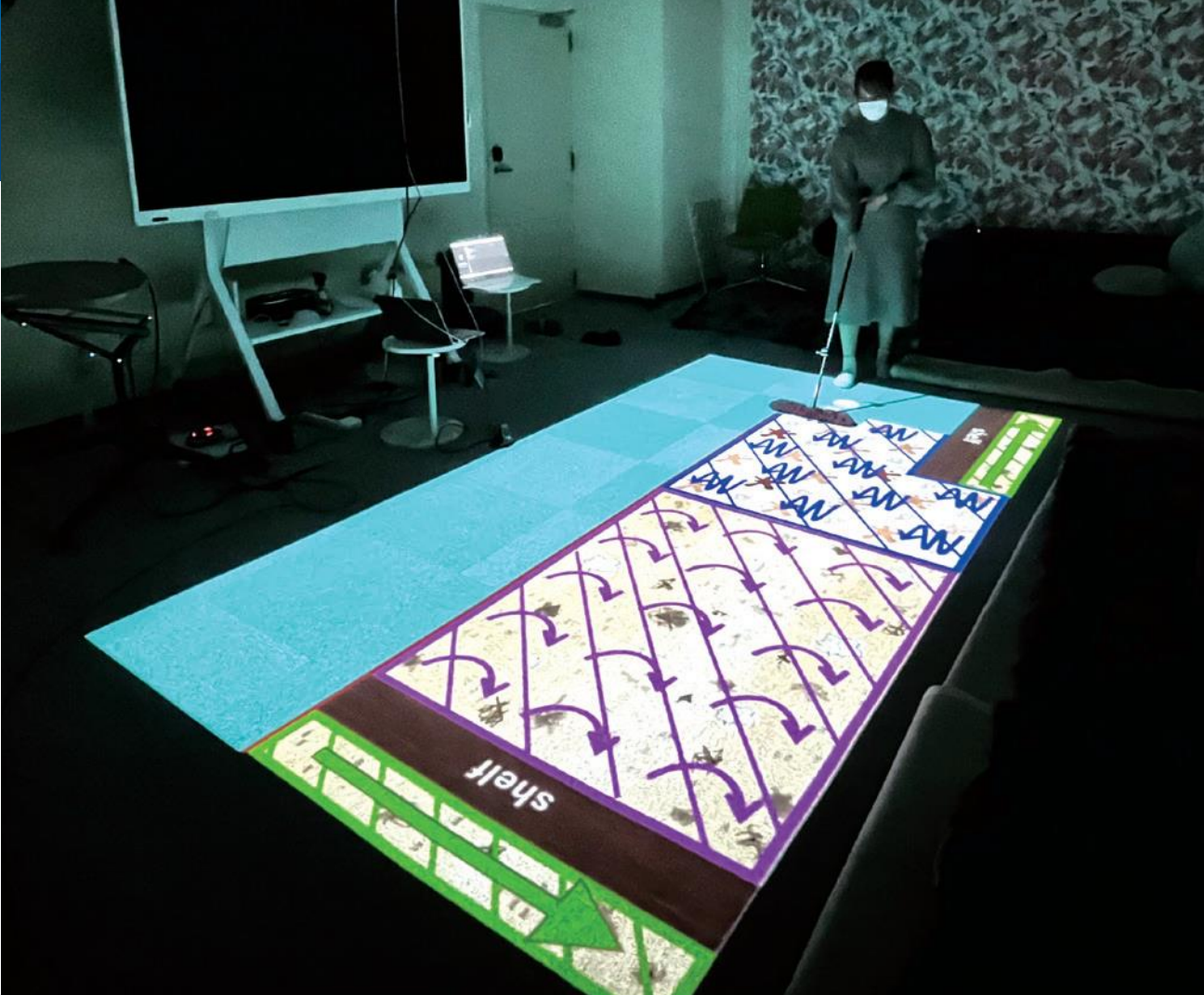
山本 雄大
YAMAMOTO, Yuda

BASE食料エネルギーシステム科学専攻
一貫制博士課程 3年
長野県松本県ヶ丘高等学校出身

スポーツにおける靱帯の使い方を物理から解明

人間はスポーツに取り組む際、感覚や経験に基づきながら複雑に身体を動かしています。そうした身体の動きについて、物理の側面からメカニズムを解明することが私の研究テーマです。具体的に着目しているのは、靱帯の使い方。サッカーをはじめとして、多くのスポーツでは靱帯がわずかに伸縮する動きを巧みに利用しています。そこで、アウトサイドパスの際の足の動きをコンピュータ上のモデルで再現す

るほか、モーションキャプチャー技術なども活用し、多角的にシミュレーションを実施。蹴ったボールの動きに対する影響などを明らかにしました。最近では、自ら主導して海外の大学と共同研究も進めています。靱帯の専門家として多様な分野の研究者や企業と連携し、選手のパフォーマンス向上や靱帯損傷の予防に寄与できる製品やシステムを開発することが目標です。



超スマート社会を支える 技術者・研究者を養成



研究室 PICKUP



准教授 | 中山悠
NAKAYAMA, Yu

企業連携を軸にした研究活動を通して 社会で確実に役に立つ力を身につける

私の研究室では、IoTやAIシステム、最新のセンシング技術を用いて、人間の行動支援や環境モニタ技術の開発に取り組んでいます。例えば、AIカメラでオフィスの行動を解析する研究のほか、サイネージやプロジェクトの光で人やドローンをサポートする研究があります。

情報技術は今、私たちの生活や産業に欠かせません。我々の研究は企業との共同プロジェクトも多く、打ち合わせやイベントなど企業の方と接する機会が多いのが特長。社会のためになる活動をして、卒業後に役に立つ力を身につけてほしいと思っています。

学生の声



赤石夏輝
AKAISHI, Natsuki

大学院工学府 知能情報システム工学専攻
博士後期課程1年
私立ラ・サール高等学校出身

数学を用いて音や画像の処理性能を向上

多くの音楽信号にはギターやドラムなどの複数の楽器音が含まれ、それぞれがさまざまな成分で構成されています。私が取り組んでいるのは、和音やリズムなどの音楽的な情報の抽出に役立つ、三角関数的な成分と打撃的な成分を分離する手法の研究です。その研究では、数値最適化を中心とした数学を用いて、より高い分離性能を実現しました。それ

と並行して、同様の数学を用いて顕微鏡の画像を高精度に復元する手法の開発にも挑戦しています。私はもともと音楽が好きで、数学的な視点から音響信号を扱う研究に面白さを見出しました。AIを始めとするさまざまなデジタル技術が急速な発展を遂げる中、独自のアイデアによって新しい可能性を広げられる点が大きなやりがいになっています。

本学科が目指すもの

知能情報システム工学科では、人間と親和性の高い知的な情報システムの創出ならびに次世代のサイバーフィジカル社会を支える基盤となる電子情報通信システムの構築に必要な教育研究を行います。これにより、現代社会が抱える諸問題の解決に貢献する高度イノベーション人材の養成を目指しています。

カリキュラム

知能情報システム工学科では基礎となるプログラミングや電気回路等の専門基礎科目に実験・演習を組み合わせることで「手を動かす教育」を行います。専門科目の履修には2つのコースを用意することで、幅広い知能情報システム工学分野の中でアイデンティティを確立します。

	専門科目			
	専門基礎科目		専門科目	
	数理情報工学	電子情報工学	数理情報工学	電子情報工学
4 年次			◎論文・文献購読 ◎卒業論文	
3 年次			◎知能情報システム工学実験2A ○先端数理情報数学 オペレーティングシステム 言語処理系 ソフトウェア工学 コンピュータグラフィックス 情報セキュリティ 計算機ネットワーク データベース 関数プログラミング 数値最適化	◎知能情報システム工学実験2B ○先端電子情報数学 電子デバイスII デジタル電子回路 メディア伝送工学 量子力学概論 熱統計力学 パワーエレクトロニクス 先端電子デバイス 電磁波工学
2 年次	◎離散数学 ◎アルゴリズム序論 ◎アルゴリズム序論演習 ◎計算機アーキテクチャ ◎計算機アーキテクチャ演習	◎電磁気学Ⅰ ◎電磁気学Ⅱ ◎基礎電子回路 ◎電子デバイスⅠ	◎知能情報システム工学実験1A オブジェクト指向プログラミング	◎知能情報システム工学実験1B 回路理論 電子物性工学
	関数論 代数学 ◎情報理論 ◎数理統計学 ◎線形システム	地学実験 化学基礎 生物学基礎 社会言語情報論 情報化社会と職業	○信号処理論 ○基礎情報数学 ○アルゴリズム論 マイクロプロセッサ ○先進知能情報システム工学実験Ⅱ ○先進知能情報システム工学実験Ⅲ	
1 年次	◎線形代数学Ⅰ ◎微分積分学Ⅰおよび演習 ◎線形代数学Ⅱ ◎微分積分学Ⅱおよび演習 地学 ◎微分方程式 ◎幾何学 物理学基礎 ◎知能情報システム工学概論	◎プログラミングⅠ ○プログラミングⅠ演習 ◎プログラミングⅡ ◎プログラミングⅡ演習 ◎コンピュータ基礎 ◎基礎電気回路 ◎論理回路 ◎基礎回路演習	○先進知能情報システム工学実験Ⅰ ○先進知能情報システム工学演習Ⅰ	

◎印の科目は必修、○印の科目は選択必修

知能情報システム 工学科の学び

システムソフトウェア/ネットワーク/セキュリティ/パターン認識/人工知能/ロボティクス/コンピュータグラフィックス/VR/ヒューマンインタフェース/計算機アーキテクチャ/アルゴリズム/計測・制御工学/信号処理/画像工学/通信工学/電子材料・物性工学/ナノデバイス/パワーエレクトロニクス/ワイヤレス通信/電磁気学/電子回路/電子デバイス

卒業後の主な進路

- 日本電信電話
 - エヌ・ティ・ティ・データ
 - エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ
 - 野村総合研究所
 - KDDI
 - 日本電気
 - 日立製作所
 - 富士通
 - 三菱電機
 - ソフバンク
 - TDK
 - 東芝
 - 古河電気工業
 - カシオ計算機
 - リコー
 - ニコン
 - キヤノン
 - ソニー
 - 横河電機
 - 住友電気工業
 - ヤマハ発動機
 - みずほ情報総研
 - みずほ銀行
 - 三菱UFJ銀行
 - 大日本印刷
 - TOPPANホールディングス
 - 東日本旅客鉄道
 - リクルートホールディングス
 - 日本放送協会
 - トヨタ自動車
 - 本田技研工業
 - いすゞ自動車
 - 三菱自動車工業
 - 日産自動車
 - SUBARU
 - 小松製作所
 - 日立ソリューションズ・テクノロジー
 - 日立国際電気
 - ルネサス エレクトロニクス
 - 電源開発
 - 東京電力ホールディングス
 - 東京エレクトロン
 - 東京ガス
 - 関電工
 - ディー・エヌ・エー
 - ソニー・インタラクティブエンタテインメント
 - 任天堂
 - セガゲームス
 - ヤフー
 - スクウェア・エニックス・ホールディングス
 - バンダイナムコオンライン
 - SCSK
 - サイバーエージェント
 - 大学教員
(大学院博士後期課程修了生)
 - 国家公務員総合職 など
- 進学
- 東京農工大学大学院
 - 東京大学大学院
 - 東京工業大学大学院 など

取得できる免許・資格

- ☒ 中学校教諭1種免許（数学）
- ☒ 高等学校教諭1種免許（情報・数学）

大学院

GRADUATE SCHOOL

学部で身につけた知識や実験・実習のスキルを活かして、自ら研究課題を見つけ出し、解決方法を模索していくのが大学院の学び。研究課題に関するコミュニケーションや発表のスキルも磨くことができます。企業や行政機関の研究職を目指す場合、大学院の研究、ラボ活動の経験が、将来の選択肢を広げてくれます。また、大学で研究を続け、研究者・指導者を目指すこともできます。

工学府

博士前期課程・博士後期課程・
専門職学位課程

2023年4月に、櫛型教育の完成を目指して、博士前期課程6専攻、専門職学位課程1専攻、博士後期課程6専攻へと改組し、また2019年4月には博士後期課程に東京外国語大学及び電気通信大学と連携した共同専攻「共同サステナビリティ研究専攻」を設置しています。工学府では、所属専攻で高度な専門性を身につけるとともに専攻横断型の学際科目も用意し、企業などとの共同研究を通して、他の専門分野の人とも協働できる人材を育成することを目指しています。工学府は社会にも広く開かれた学びを展開しており、企業や研究機関に所属する研究者なども就業しながら博士後期課程を修了することができます。

博士前期課程
生命工学専攻 生体医用システム工学専攻 応用化学専攻 化学物理学専攻 機械システム工学専攻 知能情報システム工学専攻
博士後期課程
生命工学専攻 生体医用システム工学専攻 応用化学専攻 化学物理学専攻 機械システム工学専攻 知能情報システム工学専攻
博士課程（後期3年）
共同サステナビリティ研究専攻
専門職学位課程
産業技術専攻



農学府

修士課程

「農学」を基盤として地球規模の課題に挑める人材を育成するために、農学府（修士課程）は2019年4月、改組を行いました。旧来の9専攻のすべての分野を1専攻に集約し、専門分野間の学術交流を活性化します。また、海外の研究留学や提携大学とのダブルディグリープログラムも整備。グローバル社会のニーズに応えるスキルの養成にも注力します。

修士課程
農学専攻 ●生物生産科学コース ●応用生命化学コース ●自然環境資源コース ●食農情報工学コース ●地球社会学コース ●国際イノベーション農学コース



共同獣医学専攻
4年制博士課程

共同獣医学科の卒業生は、岩手大学と共同で設置している獣医学の大学院博士課程（修業年限4年）に進むことができます。動物基礎医学、獣医衛生科学、獣医臨床医学のうちのひとつに所属して研究を進めます。

4年制博士課程
共同獣医学専攻



連合農学研究科

博士課程（後期3年）

本学、茨城大学および宇都宮大学の農学系大学院修士課程を母体として編成された博士課程のみの大学院です。学生1名に関係分野の教員3名を指導教員として配置し、濃密で効率的な研究指導体制をとっています。全学生の約4割が留学生という国際色豊かな大学院です。

博士課程（後期3年）
生物生産科学専攻 応用生命科学専攻 環境資源共生科学専攻 農業環境工学専攻 農林共生社会科学専攻



修了後のキャリア

東京農工大学/宇都宮大学/岐阜大学/明治大学/国立環境研究所/産業技術総合研究所/森林総合研究所/農研機構/茨城県/ガジャマダ大学/ボゴール農科大学/明治/コニカミノルタ/武田薬品工業/日本製紙

先進学際科学府

修士課程 ※令和7年度設置

博士後期課程 ※令和9年度設置構想中

博士課程（後期3年）※令和9年度設置構想中

大学院先進学際科学府では、計測科学、計算科学、データ科学を三位一体として連携・融合することにより農学・工学を基盤とした学際的な教育研究を行います。先進学際科学専攻（修士課程・博士後期課程）及び早稲田大学との共同専攻である共同先進健康科学専攻（博士課程（後期3年））を設置して実データを活用した知の創造、科学的・社会的課題の解決、持続的社会的実現に向けた新しい知や価値の創出に取り組む高度情報人材を育成します。

※現時点では設置に向けた構想中であり、内容を変更する場合があります

修士課程（2年）
先進学際科学専攻 ●予測情報学コース ●資源・エネルギー科学コース ●食料・環境科学コース ●健康・福祉科学コース
※令和7年度設置
博士後期課程（3年）
先進学際科学専攻 ●予測情報学コース ●融合科学コース
※令和9年度設置構想中
博士課程（後期3年）
共同先進健康科学専攻
※令和9年度設置構想中



修了後のキャリア

旭化成/ソニー/全日本空輸/オリンパス/パナソニック/東京エレクトロン/日産自動車/プリマハム/キヤノン/日揮/村田製作所/花王/トヨタ自動車 ほか

博士人材育成プログラム

農学や工学の垣根を超えた“研究教育特区”である「未来価値創造研究教育特区（FLOuRISH）」では、修士課程から博士後期課程までの5年一貫制「卓越大学院プログラム」や、博士後期課程の学生を対象とする「FL-SPRING/FL-BOOST」プログラムとして、研究奨励費支援、国内外研究留学支援、学際融合による尖端的研究力を高めるためのアントレプレナーシッププログラムの提供等を行っています。



CAREER

キャリア支援/進路・就職

進路（就職・進学）ガイダンス（令和6年度参考）

4月	●進学・就職ガイダンス（進路の選択肢の考え方についてほか） ●就職ガイダンス（インターンシップ・仕事体験活用ほか）
5月	●公務員ガイダンス（公務員の仕事内容・試験制度・試験対策についてほか） ●就職ガイダンス（筆記試験対策講座ほか）
6月	●大学院進学説明会 ●就職ガイダンス（筆記試験対策講座ほか）
8月	●合同企業研究会

9月	●就職ガイダンス（就職活動の始め方ほか）
10月	●就職ガイダンス（インターンシップ・仕事体験活用ほか）
11月	●外国人留学生に対する就職ガイダンス
1月	●就職ガイダンス（エントリーシート・面接についてほか）
2月	●合同企業研究会 ●進路・就職ガイダンス（低学年向け自己分析講座ほか）

東京農工大学では、大学院への進学率が高いため、大学院を修了した後に就職する学生が多いことが特徴です。また、本学では、学生各人が自己の能力・適性に合わせた職業選択をできるように、進路・就職の指導および情報提供をしています。進路（就職・進学）ガイダンス日程等の詳細については、ホームページ・SI RI US掲示板、就職情報コーナー等で案内しています。

進路・就職サポート

“未来の自分探し”をお手伝い

東京農工大学では、学生一人ひとりの進路や就職に関する悩みや相談に応えられるように、豊富な経験と知識を有する相談員（キャリア・アドバイザー）を学外から招へいし、みなさんの相談に応じています。また、就職情報コーナーを各キャンパス学生支援室に設け、随時企業情報の収集等ができるようにしています。



学部卒業生・大学院修了生の 地方・国家公務員就職者数

年度	地方公務員	国家公務員
令和5	19人	22人
令和4	17人	15人
令和3	16人	18人

※農学部・工学部卒業生、農学府・工学府修了生の合計

卒業生 INTERVIEW

洪 美礼
HONG, Mire

大学院農学府農学専攻
国際イノベーション農学コース修士課程修了
丸紅株式会社勤務



総合商社で南米チリの水道事業を支える

総合商社で海外の事業投資を担当する部門で働いています。現在は、南米チリで水道事業を行う企業への投資を担当しています。もともと開発途上国の支援に興味があり、業界研究をするなかで、商社で海外のインフラを支えるという仕事に出会いました。学生時代は、「キヌア」という植物の耐塩性に関する研究をしていました。水ビジネスにおいて化学や生物学の専門知識は不可欠で、現地の技術者と話をする際に、化学記号でわかり合えたりすること。大学での研究経験を海外のインフラ整備の仕事で活かしたいです！

卒業生 INTERVIEW

牛久結貴
USHIKU, Yuki

大学院工学府物理システム工学専攻
（現：化学物理工学専攻）
博士前期課程修了
ソニーセミコンダクタ
ソリューションズ株式会社勤務



最先端のイメージセンサー技術を開発中！

スマホやデジカメに使われているイメージセンサーの開発に携わっています。担当は新規の積層型デバイス開発で、日々世界に先駆けた挑戦ができるのがやりがいです。在学中は、農業用有機薄膜太陽電池の開発に取り組んでいました。デバイス開発という点では現在の仕事と共通点があり、研究室で「ものづくり→評価→改善」というサイクルを回してきた経験は開発現場で大いに活かされています。将来は車載・医療向けのセンサー開発に携わり、社会をよりよいものにしていきたいと考えています。

卒業生 INTERVIEW

河竹舞祐
KAWATAKE, Mayu

農学部環境資源科学科卒業
キリンホールディングス株式会社
キリン中央研究所勤務



研究室での学びや経験がかけがえのない財産に

ヘルスサイエンス領域の研究所において、微生物を用いて人の役に立つ物質を発酵生産するための育種検討やスケールアップ検討に取り組んでいます。仕事のモチベーションは、これまで誰も注目していなかった微生物の性質や能力に着目し、新しい発見に立ち会えること。大学時代は、主に担子菌（きのこ）由来の新規酸化還元酵素について研究していました。当時学んだ実験の手法や論理的思考、研究発表の経験は、現在の仕事においてかけがえのない財産になっています。

卒業生 INTERVIEW

安富 優
YASUTOMI, Suguru

大学院工学府電気電子工学専攻
（現：知能情報システム工学専攻）
博士前期課程修了
富士通株式会社勤務

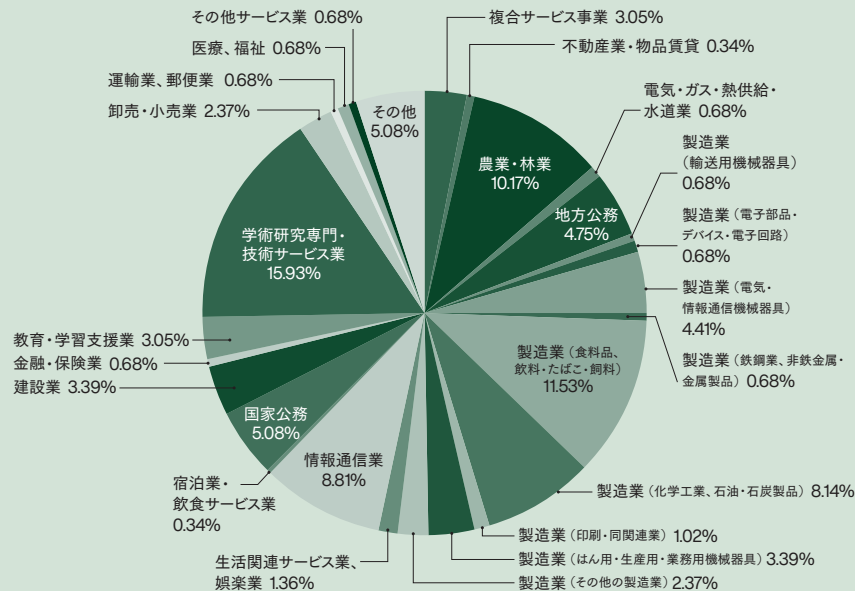
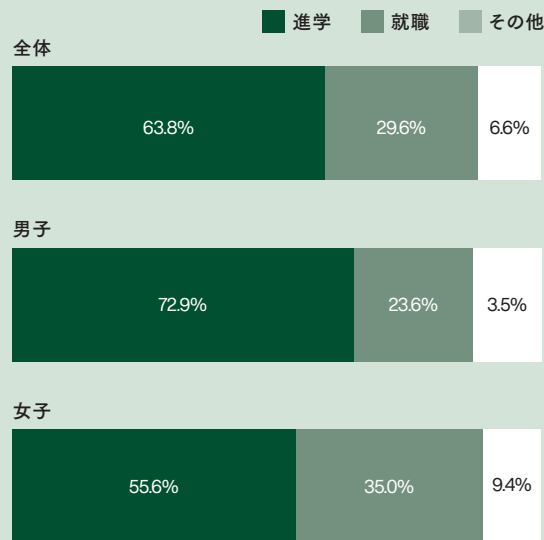


深層学習で超音波検査画像を解析

深層学習（ディープラーニング）と呼ばれるAI（人工知能）を使った研究に取り組んでいます。医療系の超音波検査画像を解析し、診断の精度向上に役立てるのが狙いです。在学中は、生体信号処理の研究室で、機械学習を使ってデータを解析する研究に取り組んでいました。機械学習や深層学習の技術は急速に進歩していますが、基盤となる数学や統計学の知識は変わりません。大学時代に数式にとらめっこしながら機械学習の基礎知識を学んだ経験は、AIエンジニアとして大きな強みになっています。

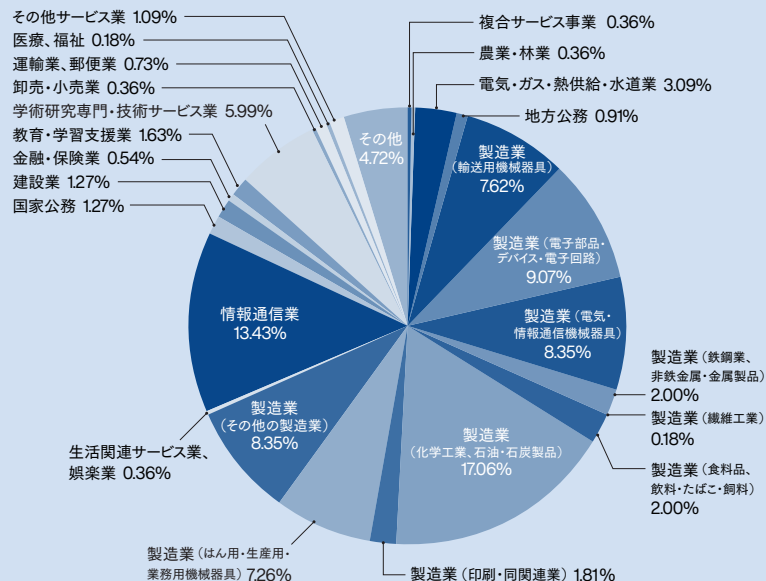
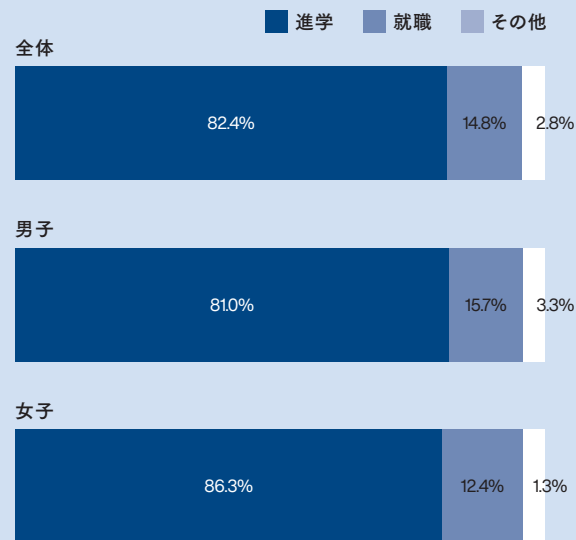
令和5年度卒業 学部生（農学部）の進路状況

令和5年度卒業・修了 学部卒業生（農学部）・大学院修了生（農学府）の就職先状況

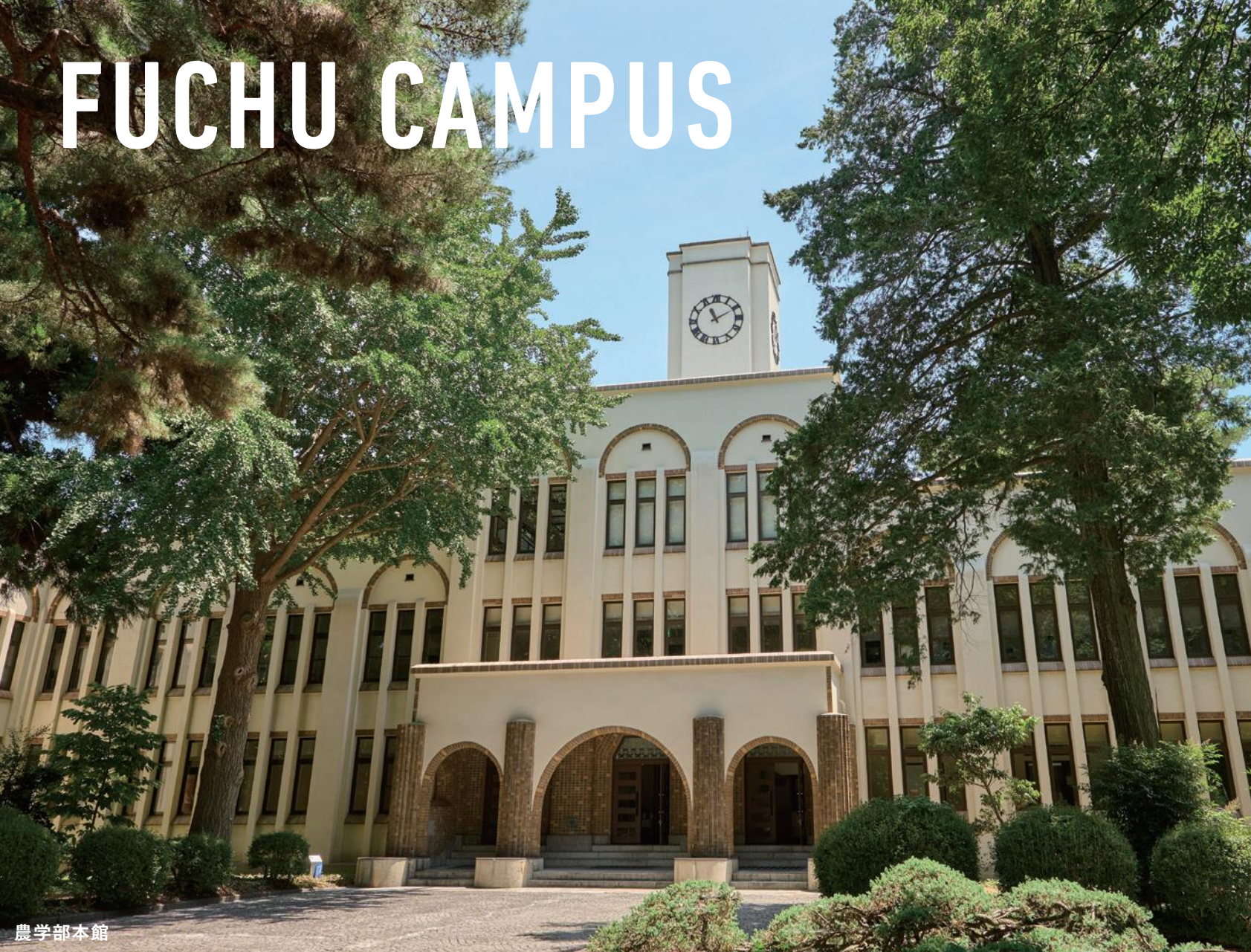


令和5年度卒業 学部生（工学部）の進路状況

令和5年度卒業・修了 学部卒業生（工学部）・大学院修了生（工学府）の就職先状況



FUCHU CAMPUS



農学部本館



馬術部



農学部食堂



檜寮



農場



府中図書館



牛舎



先進植物工場研究施設



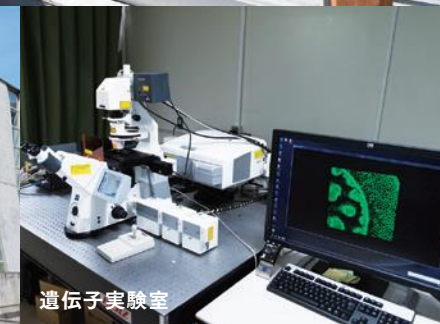
農工夢市場



本館 大講堂



動物医療センター



遺伝子実験室

府中キャンパス

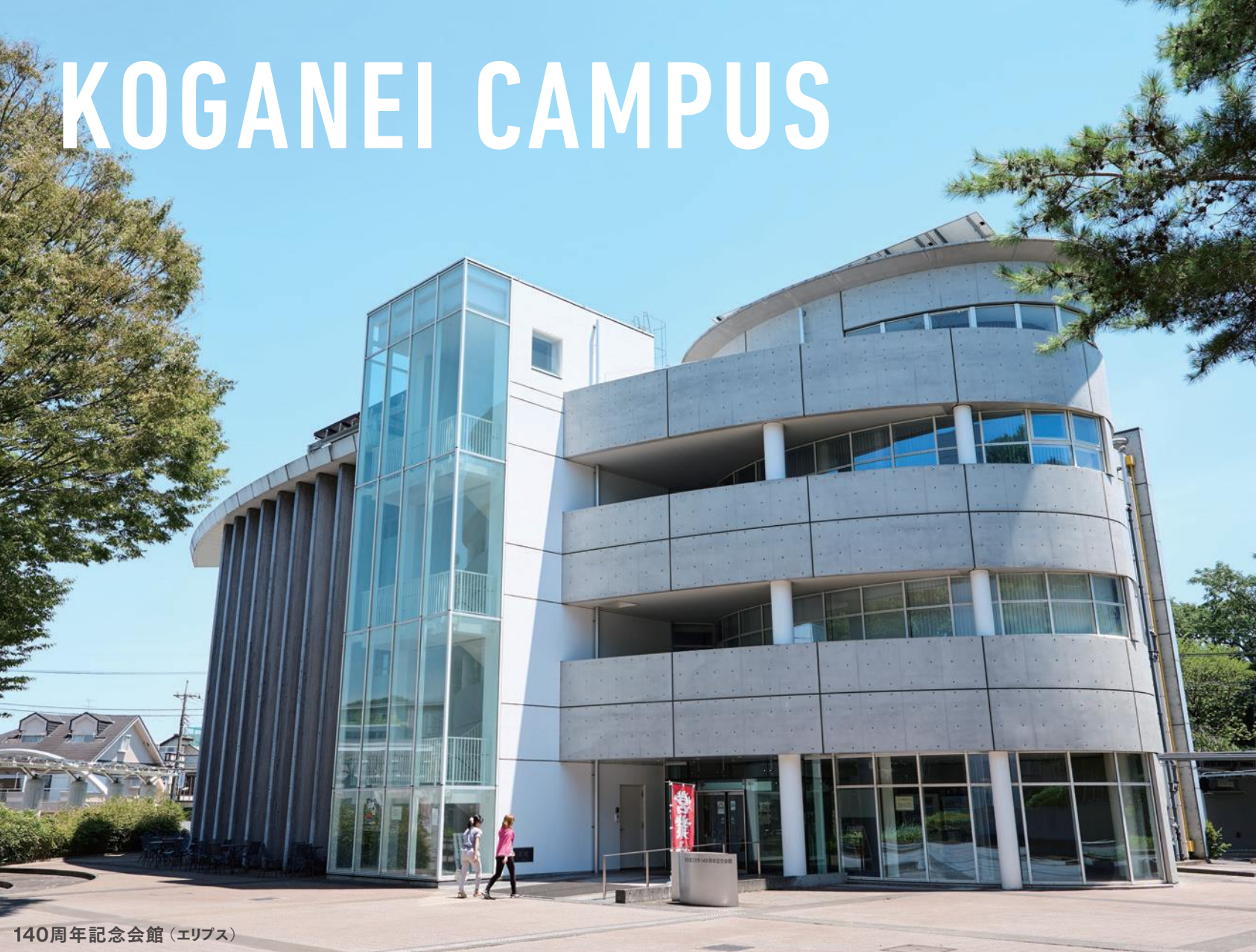
東京都内にありながら、約27万平方メートルという広大な敷地を誇る府中キャンパス。緑あふれる構内には、講義棟や研究棟、先進の研究施設が設置されており、自然に恵まれた環境で学ぶことができます。さらに、広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センターの農場が広がっています。

CAMPUS MAP



- | | | | |
|----|-----------------|----|---------------------------------|
| 1 | 1号館 | 22 | 学生系事務棟
(グローバル教育院府中オフィス) |
| 2 | 2号館 | 23 | 本部管理棟 |
| 3 | 3号館 | 24 | 保健管理センター |
| 4 | 4号館 | 25 | 50周年記念ホール |
| 4N | 新4号館 | 26 | 広域都市圏
フィールドサイエンス教育
研究センター |
| 5 | 5号館 | 27 | 遺伝子実験施設 |
| 6 | 6号館 | 28 | 農学部RI研究室 |
| 7 | 7号館 | 29 | 乳牛舎 |
| 8 | 8号館 | 30 | 府中国際交流会館 |
| 9 | 9号館 | 31 | 楓寮(女子寮) |
| 10 | 農学部第1講義棟 | 32 | 府中第2宿舍(職員宿舎) |
| 11 | 農学部第2講義棟 | 33 | 府中幸町宿舎(職員宿舎) |
| 12 | 農学部本館・科学博物館 分館 | 34 | 府中第4住宅(職員宿舎) |
| 13 | 府中図書館 | 35 | 先進植物工場研究施設 |
| 14 | 動物医療センター | 36 | 農工夢市場・事務室 |
| 15 | 硬蛋白質利用研究施設 | 37 | 厩舎 |
| 16 | 府中体育館 | 38 | 檜寮(男子寮・女子寮) |
| 17 | 総合屋内運動場施設 | 39 | 邂逅館
(西東京国際イノベーション共創拠点) |
| 18 | 福利厚生センター | | |
| 19 | 大学院連合農学研究科管理研究棟 | | |
| 20 | 府中先進学際科学府棟 | | |
| 21 | 運動場附属施設(ゴルフ練習場) | | |

KOGANEI CAMPUS



140周年記念会館（エリpos）



中庭



新1号館



テックガレージ（ディープテック産業開発機構）



東門



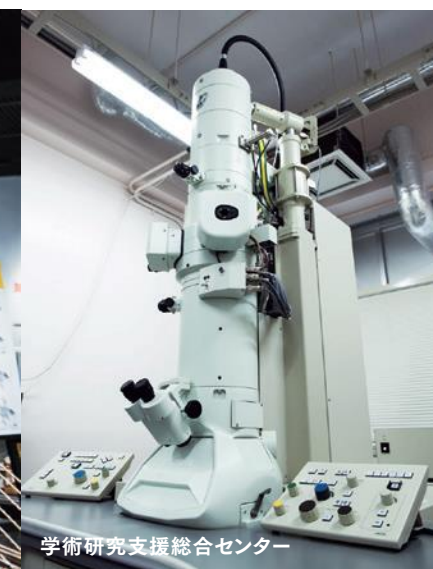
小金井図書館



欒並木



科学博物館



学術研究支援総合センター



ものづくり創造工学センター



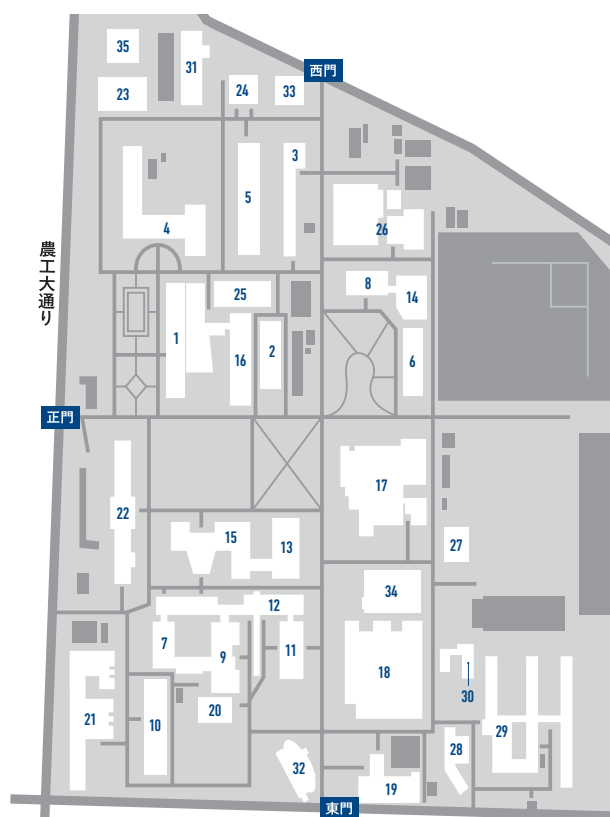
欒寮



小金井動物救急医療センター

小金井キャンパス

豊かな自然に恵まれ、欒並木と銀杏並木が印象的な小金井キャンパス。都心から電車で30分圏内と好立地に位置し、工学の基礎から応用までを学ぶ講義棟をはじめ、研究開発に取り組む各種施設が立ち並びます。国内外の最先端を担う研究開発を行うのに適した環境となっています。



CAMPUS MAP

- | | |
|--------------------------|--|
| 1 1号館 | 18 BASE本館 |
| 2 2号館 | 19 工学部総合会館 |
| 3 3号館
(ディープテック産業開発機構) | 20 CAD / CAM実習棟 |
| 4 4号館 | 21 先端産学連携研究推進センター |
| 5 5号館 | 22 科学博物館 |
| 6 6号館 | 23 先端科学実験棟 |
| 7 7号館 | 24 環境管理施設 |
| 8 8号館 | 25 ものづくり創造工学センター |
| 9 9号館 | 26 体育館・武道場 |
| 10 10号館 | 27 工学部RI研究棟 |
| 11 11号館 | 28 小金井国際交流会館 |
| 12 12号館 | 29 欒寮（男子寮） |
| 13 13号館
(グローバル教育院) | 30 桜寮（女子寮） |
| 14 14号館 | 31 小金井第2宿舍（職員宿舎） |
| 15 工学部講義棟 | 32 140周年記念会館（愛称：エリpos） |
| 16 新1号館 | 33 次世代キャパシタ研究センター |
| 17 小金井図書館 | 34 管理棟（愛称：CUBE）
(小金井地区事務部・保健管理センター) |
| | 35 小金井動物救急医療センター |

CAMPUS LIFE

EVENT CALENDAR

4	●入学式 ●新入生オリエンテーション	5	●卓棋祭 (小金井キャンパス)	6		7		8	●夏季休業 ●オープンキャンパス	9		10		11	●学園祭 (府中キャンパス) ●秋のオープンキャンパス	12	●冬季休業	1	●大学入学 共通テスト	2	●一般選抜 (前期)	3	●一般選抜 (後期) ●春季休業 ●卒業式
	入学式		工学部 卓棋祭		工学部 オープンキャンパス		農学部 学科説明会		農学部 秋のキャンパスハイク		農学部 農工祭		卒業式										
前 学 期												後 学 期											

CLUB&CIRCLE



ジャグリング
サークル
@jug



バレー
ボール部



ラート
競技部



musset



TUAT
Formula



竹桐会



宇宙工学
研究部
Lightus



モダンジャズ
研究会



養蜂
サークル



狩り部



のたっと



馬術部



変わり種
工房



ミニホースの会



航空研究会

文化系サークル

- Buddy Club
- SF研究部
- TUAT Formula
- アカペラサークル ANIT
- 囲碁部
- 歌研究会
- 宇宙工学研究部 Lightus
- 映画研究部
- エレクトーンサークル音風
- 演劇部
- カードゲームサークル
- 管弦楽団
- 一橋・津田塾・農業大ギター部
- 競技かるた
- グリークラブ
- 軽音部
- 航空研究会
- 昆虫研究会
- 作曲・DTM サークル
- 茶道部
- 児童文化研究会 (じゃり研)
- ジャグリングサークル@jug
- 写真部
- 将棋部
- 植物研究会
- 吹奏楽団
- ステージ研究会
- 電脳サークル
- 旅と鉄道研究会
- 竹桐会
- 天文部
- ピアノ部
- 美術部
- 文芸部
- マイクロコンピュータクラブ
- まちけん
- 漫画研究部
- ミニホースの会
- モダンジャズ研究会
- 野生動物研究会
- 落語研究会
- ロボット研究会 R.U.R.
- 民族舞踊部
- のこばけ
- Google Developer Groups
- IAESTE 同好会

体育系サークル

- 合気道部
- アメリカンフットボール部
- オリエンテーリング部
- 空手道部
- 弓道部
- 剣道部
- Guarana Tennis Club
- 硬式野球部
- ゴルフ部
- サッカー部
- 自転車部
- 自動車部
- 柔道部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- スキー部 Fel oze
- ソフトテニス部
- ソフトボール部
- 卓球部
- 探検部
- テコンドー部
- 馬術部
- バスケットボール部
- バドミントン部
- バレーボール部
- ハンググライダー部
- Flying Chicken
- ヨット部
- ラート競技サークル
- ラグビー部
- 陸上競技部
- ワンダーフォーゲル部
- 硬式庭球部
- ダンスサークル rough
- ツーリングカヌー部
- ハンドボール部

自主ゼミ

- 狩り部
- 変わり種工房
- 耕地の会
- Connect A
- ごみダイエツトNOKO
- 食農ゼミ
- どんぐりの村
- 農工やさい塾
- のごすまいと
- のたっと
- ミミズコンポスト管理局
- MOWゼミ
- 森づくりの会
- 森の派出所
- 養蜂サークル
- 発酵ラボ
- パラ会
- Cet (セツト)
- プラごみ減らし隊

科学博物館
支援団体

- musset

自然豊かなキャンパスでは四季の変化を感じることができます。東京農工大学で経験する学生生活は、ここでしか得られない貴重なものです。また、府中・小金井キャンパスの垣根を越えて交流が行われるサークル活動は、文化系から体育系までとさまざま。共通の趣味や目的をもった仲間と充実したキャンパスライフを送ることができます。

農工大生の1日



大学院農学府
農学専攻生物生産科学コース
修士課程1年

澤田響希

SAWADA, Hibiki

石川県立金沢二水高等学校出身

尊敬できる先生や学生と 出会うことのできる環境

現在、学生生活で最も力を入れていることは研究です。グルタチオンという物質を対象に、植物の生体内における機能を解析しています。それと並行し、個別指導の学習塾でアルバイトを継続。両立は苦労も多いですが、生徒の頑張る姿を見ることが刺激になっています。農工大の魅力は、好きなことに熱中している先生や学生と交流できること。人間性や知識量を含め、尊敬できる人との出会いが数多くありました。学部3年次の留学も貴重な経験になったので、今後も多くのつながりを求めて多様な環境に身を置きたいと考えています。



農学部応用生物科学科3年

坂木陽

SAKAKI, Minami

埼玉県立大宮高等学校出身

初心者からテコンドーに挑戦 部活も授業も充実した毎日

私はテコンドー部に所属しており、日々の練習に汗を流しています。大学に入ってから新しく始めた競技ですが、部員のほとんどが未経験から始めるので気軽に始めることができました。学年や学部の異なる多様な部員と一緒に楽しく活動しています。部活動以外の時間は、同じ学部の友人たちと過ごすことが多いです。協力して課題に取り組んだり、話しながら食事したり……。農工大はあまり人数が多い大学ではないため、すぐに周囲に溶け込める環境です。部活や授業を通じて、充実した学生生活を送ることができますよ！

1年後期

※取材当時、大学4年生で授業の履修がなかったため、大学1年後期の時間割を掲載

限		月	火	水	木	金
1	08:45-10:15	Paragraph Writing	生態・進化学	日本国憲法	地学	English Discussion
2	10:30-12:00	物理化学	生涯スポーツ実技	植物分子遺伝学	動物・植物科学	生物生産学原論
3	13:00-14:30			畜産学総論	International Cooperation of Science and Technology	
4	14:45-16:15		生物学実験 化学実験	微分積分学Ⅰ	フランス語Ⅱ	フィールド実験 実習Ⅱ
5	16:30-18:00			Japanese Culture		

SCHEDULE

07:00 起床。朝食を済ませると、論文やニュースをチェックします。

09:00 研究室に到着。前日のサンプルの回収や植物の観察などを進めます。

10:00 研究進捗や今後の計画について、ポスドクの方に相談します。

12:00 昼食。実験の待ち時間を有効活用します。

16:00 実験終了。当日の結果まとめます。

17:00 次の日の実験の確認、今後の計画の修正などを行います。

18:00 帰宅。仮眠や映画鑑賞をして過ごすことが多いです。

21:00 明日の準備。その日の内にしなくてはならない作業を終わらせます。

22:30 就寝。日によっては散歩することもあります。



植物の機能解明が目標



デスクで実験結果をまとめる

2年後期

限		月	火	水	木	金
1	08:45-10:15	数理統計学				機器分析化学
2	10:30-12:00		食品化学Ⅰ	微生物生化学	キャリア プランニング	バイオロジカル コントロール
3	13:00-14:30	生物相関学		有機合成化学		
4	14:45-16:15	天然物有機化学	応用生物科学科 共通実験Ⅰ・Ⅱ/ 専門実験Ⅰ	無機化学	応用生物科学科 共通実験Ⅰ・Ⅱ/ 専門実験Ⅰ	応用生物科学科 共通実験Ⅰ・Ⅱ/ 専門実験Ⅰ
5	16:30-18:00					

SCHEDULE

07:30 起床。大学には埼玉の実家から通っています。

09:00 登校。実験の授業が楽しくて好きです。

12:00 昼食。友人と弁当を食べることが多いですが、たまに学食に行くこともあります。

13:00 午後からの授業を受講。

17:00 テコンドー部の活動に参加。火・金は農学部、月・水・土は工学部で活動があるので、好きな日に活動に参加しています。

22:30 帰宅。夕食とお風呂を終え、課題に取り組みます。自由時間にはSNSや動画を見て過ごします。

23:30 就寝。



友人たちと図書館で勉強



テコンドー部の練習

授業や課題、研究に集中する日もあれば、サークルや部活動、アルバイト、そして友人との楽しいひとときを過ごす日も。多忙ながらも充実した農工大生の1日をご紹介します。



大学院工学府
機械システム工学専攻
博士前期課程1年

須崎理恵

SUZAKI, Rie

私立フェリス学院高等学校出身

ナノペーパーの研究に注力 すき間時間に課外活動も

子どものころから電子工作が好きで、高校までアマチュア無線部に所属していました。機械の仕組みやものづくりについて学びたいと考えたことが農工大に進学したきっかけです。研究室に所属する現在は、実験に打ち込む毎日。透明で強度に優れたナノペーパーという紙を、情報処理ができる柔らかい機械にするための研究に取り組んでいます。また、農工大の先生の魅力を伝えるWEBサイト「先生大図鑑」の運営メンバーとしても活動。研究に注力する一方、すき間の時間を活用して充実した学生生活を送っています。



工学部応用化学科2年

檀上真大

DANJO, Mahiro

私立城北学園高等学校出身

弓道部の仲間と農工祭に出店 自然豊かなキャンパスが大学の魅力

中学時代から取り組んできた弓道を、大学に入ってからも部活動として続けています。弓道の魅力は、矢を放つまでの一連の感覚を磨いていく過程にあります。年に1度のリーグ戦に向け、夏休みの間も練習に励んできました。また、農工祭では弓道部の仲間たちと一緒に、模擬店でみたらし団子を販売。惣菜屋でアルバイトをしている私は副店長を務め、無事に成功させることができました。農工大は理系の大学ですが、キャンパスには自然が溢れています。恵まれた環境の中で学生生活を過ごしたいという方におすすめですね！

1年後期

※取材当時、大学4年生で授業の履修がなかったため、大学1年後期の時間割を掲載

限		月	火	水	木	金
1	08:45-10:15		キャリア・ プランニング		熱工学Ⅰ	線形代数学Ⅱ
2	10:30-12:00	機械電子工学Ⅰ	歴史学	機械システム特別講義 (実用英会話)	English Discussion	機械力学Ⅰ
3	13:00-14:30	機械システム 特別研究Ⅰ	スペイン語Ⅱ		微分積分学Ⅱ および演習	
4	14:45-16:15		材料力学Ⅰ			Paragraph Writing
5	16:30-18:00		異文化理解のためのスペイン語			地学

SCHEDULE

06:00 起床。研究室まで片道2時間以上かかるため早起きしています。

10:00 研究室に到着。PCを立ち上げると、ひたすら実験室にこもります。

12:00 昼食。お弁当を持って行くことが多いです。

12:30 ちょっと休憩。研究室の回転椅子で休みます。

13:00 研究再開。午後からも頑張ります。

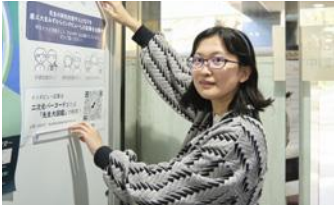
18:00 研究終わり。日によって時間はまちまちで、塾講師のアルバイトに行くことも。

20:30 帰宅。夕食・風呂を済ませ、本を読んだりピアノを弾いたりしてゆっくり過ごします。

23:00 就寝



セルロースナノファイバーから作製したナノペーパー



「先生大図鑑」のポスターをキャンパス内に展開

1年後期

限		月	火	水	木	金
1	08:45-10:15	物理化学Ⅰ		微分積分学Ⅱ および演習		工学基礎実験
2	10:30-12:00	無機化学Ⅰ	歴史学		English Discussion	
3	13:00-14:30	有機化学Ⅱ	振動・波動の物理	化学英語		生涯スポーツ 実技
4	14:45-16:15		中国語Ⅱ		線形代数学Ⅱ	Paragraph Writing
5	16:30-18:00					地学

SCHEDULE

07:00 起床。通学には電車を利用し、東小金井駅から歩きます。

08:45 登校。実験系の授業は2コマにわたって受講する場合もあります。

12:00 工学部の生協で昼食。毎日のメニューを写真に残しています。

13:00 午後の授業。専門分野のほか、体育でバスケットボールを楽しんだり、語学で英語を学んだりもします。

17:30 農学部に移動して部活に参加。2時間以上練習します。

20:00 友人と夕食。キャンパス周辺にはラーメン屋やカレー屋など、魅力的な飲食店がいっぱいいます。

22:00 帰宅。課題などを終わらせると、ゲームやSNSチェックをして休憩します。

24:00 就寝。



学食で友人たちと昼食



工学部から農学部のある府中キャンパスへ移動して部活動

学生生活サポート

経済的なことから、勉学環境、日常生活まで、誰もが利用できるバックアップ体制となっています。

保健管理センター

府中キャンパス、小金井キャンパスにそれぞれ設置しています。本センターでは、学生の心身の健康維持・増進を図るため、医師、カウンセラー、看護師、非常勤学校医が協力して、健康相談、カウンセリング、定期健康診断、病気やけがの応急処置などを行っています。

府中キャンパス 保健管理センター



場所 | 府中キャンパス正門向かい
予約・お問い合わせ | TEL 042-367-5548・5189
受付日時 | 月～金：9:00～16:30

小金井キャンパス 保健管理センター



場所 | 小金井キャンパス管理棟1階（専用入口有り）
予約・お問い合わせ | TEL 042-388-7171
受付日時 | 月～金：9:00～16:30

特別修学支援室



身体や感覚機能に障がいのある学生、その他さまざまな修学上の問題を抱える学生を支援しています。
お問い合わせ | 各保健管理センター
FAX | 042-367-5559

工学部総合会館・農学部福利厚生センター等

学生の憩いの場、学生同士や学生と教職員の親睦を図るための施設として農学部内に「農学部福利厚生センター」、工学部内に「工学部総合会館」の施設を設置。そのほか、学生の課外活動やレクリエーション等のための合宿研修施設も用意しています。また、東京農工大学消費生活協同組合では食堂をはじめ、大学生活に便利な文房具・オリジナルグッズの販売を行っています。



工学部総合会館

奨学金

東京農工大学では、学生一人ひとりに合わせて奨学金を用意しています。奨学金には、いくつか種類があり東京農工大学独自の奨学金、日本学生支援機構の奨学金、地方公共団体・民間団体等の奨学金などがあります。

日本学生支援機構の奨学金

日本学生支援機構奨学金の貸与・給付を受けるには、経済的に困難というだけでなく、成績等も含めた選考のうえ採用となります。※学部生対象

日本学生支援機構奨学金	
第一種奨学金（無利子）	
自宅通学者	45,000 円、30,000 円、20,000 円（月額）から選択
自宅外通学者	51,000 円、40,000 円、30,000 円、20,000 円（月額）から選択
第二種奨学金（有利子）	
申込者の経済的な必要度に応じて月額2万円～12万円の中から、1万円単位で選択できます。	
給付奨学金	
自宅通学者	29,200 円（33,300 円）、19,500 円（22,200 円）、9,800 円（11,100 円）、7,300 円（8,400 円）（月額） ※生活保護世帯及び児童養護施設等から通学する人等はカッコ内の金額
自宅外通学者	66,700 円、44,500 円、22,300 円、16,700 円（月額）

東京農工大学独自の奨学金

東京農工大学では、独自の給付型奨学金制度を設けています。修学支援のための経済支援奨学金、研究を支援する研究奨励金「JIRITSU（自立）」などの制度があります。

問い合わせ先
府中地区学生支援室学生生活係 TEL 042-367-5579
小金井地区学生支援室学生生活係 TEL 042-388-7011

地方公共団体・民間団体等の奨学金

地方公共団体・民間奨学財団が募集する奨学金は、大学を経由して募集するものと、奨学団体が直接募集するものがあります。大学を経由して募集するものは、各担当窓口にて案内しますので、希望する場合には所定の期限内に申請手続きを行ってください。個人申請の場合には、各募集先の申請方法を確認し手続きをしてください。なお、奨学金は申請資格を満たしていても、必ず採用されるとは限りません。

令和6年度の募集実績はこちら
https://www.tuat.ac.jp/campuslife_career/campuslife/fee/syogakki/syogakkin_koukyou/

学生寮・部屋探し

東京農工大学では、良好な学生生活と勉学の環境を提供するために学生寮を設置しています。入寮条件などの詳細情報は、大学のホームページにて提供しています。近隣の賃貸アパート等（1K、バス・トイレ付）の家賃相場は60,000円～75,000円ほどです。

	府中キャンパス	小金井キャンパス	
寮名	檜寮（混住）	桜寮（女子寮）	櫟寮（男子寮）
部屋の規格	1人部屋（16m ² ）	1人部屋（13～15m ² ）	1人部屋（14～20m ² ）
収容定員	男子学生49名 女子学生62名	18名	200名
寄宿料（月額）	37,800円	30,000円	30,000円
共益費（月額）	2,200円	15,000円	15,000円
諸経費	水光熱費・インターネット使用料など	共益費に水光熱費・インターネット使用料など含む	
設備	シャワー・トイレ・ミニキッチン付き	バス・トイレ・ミニキッチン付き	



檜寮外観（北側）



櫟寮外観（男子寮）

入学料・授業料

入学料・授業料免除制度について

経済的な理由によって入学料・授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀であると認められる者に対し、選考のうえ、入学料・授業料の全額または一部を免除する制度です。

令和7年度			
区分	授業料	入学料	検定料
学部生	年額 642,960円	282,000円	17,000円
学部生（3年次編入生）	年額535,800円		30,000円
大学院生	年額 642,960円		

入学料・授業料徴収猶予制度について

経済的な理由によって入学料・授業料の納付が著しく困難であり、かつ学業優秀であると認められる者に対し、選考のうえ、前期猶予者については当該年度8月末日まで、後期猶予者については当該年度2月末日まで入学料・授業料の徴収を猶予する制度です。

単位互換制度

多摩地区にある国立4大学（東京外国語大学、東京学芸大学、電気通信大学、一橋大学）をはじめ、国際基督教大学、東京海洋大学などの大学と単位互換制度を結んでいます。キャンパスの枠を超えた多彩な履修機会を無料で提供し、学生の学びへの意欲を積極的にサポートします。

多摩地区の国立大学を中心としたキャンパスで学べる	
学部	東京外国語大学／東京学芸大学／電気通信大学／一橋大学 国際基督教大学＊／東京海洋大学＊◆（海洋工学部のみ） 琉球大学＊／長岡技術科学大学＊
大学院	東京外国語大学／東京学芸大学 電気通信大学／国際基督教大学＊ 東京海洋大学＊／上智大学＊

◆東京海洋大学（海洋工学部）との単位互換は工学部のみとなります。
＊印は多摩地区国立5大学単位互換制度ではなく、本学が独自に単位互換を実施している大学です。

数字で見る農工大

教員1人に対して学生

約 9 人

大学満足度

94%

2024年度に実施した学生生活実態調査では、9割以上の学生が大学に満足しているという回答を得ることができました。

男女比

農学部 5:5

工学部 7.5:2.5

全国の理系国立大学の中でもトップクラスの女子学生比率。

入試情報

2026年度募集人員

- 備考
- ①学校推薦型選抜において、産業動物獣医師養成枠として、農学部共同獣医学科で若干名募集します。

②前期日程の募集人員には、学校推薦型選抜（産業動物獣医師養成枠）、社会人入試および私費外国人留学生入試の若干名を含みます。

③総合型選抜および学校推薦型選抜の合格者が募集人員に満たなかった場合は、その欠員分は前期日程の募集人員に加えます。

			一般選抜		総合型選抜		学校推薦型選抜	特別選抜	
			前期日程	後期日程	ゼミナール入試	SAIL入試		社会人入試	私費外国人留学生入試
出願期間（2026年度入試）			1/26～2/4		10/3～10/9	9/1～9/8	1/15～1/21	1/15～1/21	1/16～1/26
選抜期日（2026年度入試）			2/25	3/12	11/22	9/26		2/25・2/26	2/26
学部	学科	入学定員	募集人員（人）						
農学部	生物生産学科	57	38	13	募集しない	募集しない	6	若干名	若干名
	応用生物科学科	71	47	16			8	〃	〃
	環境資源科学科	61	40	12	3		6	〃	〃
	地域生態システム学科	76	53	15	募集しない		8	〃	〃
	共同獣医学科	35	25	6			4	募集しない	〃
	学部計	300	203	62	3		32		
工学部	生命工学科	81	42	25	募集しない	7	7	募集しない	若干名
	生体医用システム工学科	56	28	18		6	4		〃
	応用化学科	81	42	36		募集しない	3		〃
	化学物理工学科	81	41	31			5		4
	機械システム工学科	102	52	37		5	8		〃
	知能情報システム工学科	120	64	42		7	7		〃
	学部計	521	269	189		30	33		
	合計	821	472	251	3	30	65		

※この情報は2025年3月時点の内容です。必ず本学WEBサイトにて最新の情報を確認してください。

入試関係資料について（予定）

	大学案内	入試情報	総合型選抜学生募集要項 （ゼミナール・SAIL）	特別選抜学生募集要項 （社会人・私費外国人留学生）
	5月中旬	6月下旬	7月下旬	8月下旬
東京農工大学生協（宅配）	○	○	○	○
テレメール	○	○	○	○
モバっちよ	○	○	○	○

「入学者選抜要項」「一般選抜学生募集要項」「学校推薦型選抜学生募集要項」は、本学ホームページでの掲載（PDF形式）のみのため、印刷物の発行はありません。
なお、一般選抜および学校推薦型選抜ではWEB出願を実施しています。
https://www.tuat.ac.jp/admission/nyushi_gakubu/

東京農工大学生協（宅配）インターネット、携帯電話・スマートフォンまたはFAXにてお申し込みください。

申し込み先

フォームに必要事項を入力し、内容を確認の上、送信してください。
インターネット・スマートフォン | <https://www.univcoop.jp/tuat> FAX | 042-352-7222

宅配に関する問い合わせ先

東京農工大学生協
電話 | 042-366-0762（夏季休業日・年末年始・土日・祝日を除く11:00～14:00）

テレメール インターネットにより請求することができます。

1 テレメールのサイトにアクセスしてください。
<https://telemail.jp>



2 ご希望の資料の資料請求番号を入力してください。
QRをご利用の場合は入力不要です。

総合型選抜学生募集要項	581780	大学案内	562320
総合型選抜学生募集要項 +大学案内	582440		
特別選抜学生募集要項	582340	入試情報	547140

3 ガイドンスに従ってお届け先等を登録してください。

資料の料金は、お届けする資料に同封の支払い方法をご確認の上、資料到着後2週間以内に表示料金をお支払いください。
（別途手数料が必要です）

テレメールで請求した資料のお届け・個人情報に関するお問い合わせ・お申し出先 テレメールカスタマーセンター（IP電話） | 050-8601-0102（受付時間9:30～18:00）

モバっちよ 携帯電話・スマートフォンまたはパソコンにより請求することができます。お急ぎの方は宅配便のご利用もできます。

インターネット | <http://djic-mbj.jp/tuat2/>
インターネットのみの利用となります。パソコン、携帯電話各社・スマートフォンともアドレスは共通。携帯電話・スマートフォンから請求すると、月々の通話料金と一緒にお支払いいただけます。クレジットカード払い、コンビニ後払いも選択できます。資料請求代金に加えて、携帯払い、クレジットカード払いは50円、コンビニ後払いは126円の支払い手数料が別途必要です。携帯電話・スマートフォンの機種、携帯電話会社との契約内容によっては携帯払いがご利用いただけない場合があります。



入試に関する問い合わせ先 東京農工大学 教学支援部 入試企画課 〒183-8538東京都府中市晴見町3-8-1 電話 | 042-367-5837、5544

OPEN CAMPUS 2025

東京農工大学への進学を希望する受験生のみなさんを対象に、今年も東京農工大学のオープンキャンパスを開催します。保護者の方々、高校の先生、塾・予備校関係者の参加也大歓迎。お誘い合わせのうえ、ふるってご参加ください。

農学部		
日程	対象	名称（内容）
8月7日（木）	環境資源科学科	●夏休み一日体験教室
8月2日（土）	共同獣医学科	
8月4日（月）	地域生態システム学科	●学科説明会 10:00～12:00／ 13:30～15:30 学科の教育・研究の紹介、模擬授業、キャンパスツアーなど（学科により内容が異なります。）
8月5日（火）	生物生産学科	
8月6日（水）	環境資源科学科	
8月7日（木）	応用生物科学科	
10月5日（日）	生物生産学科、 共同獣医学科	●秋のキャンパスハイク 9:30～10:30／ 11:30～12:30／ 14:00～15:00 在学生がキャンパス内をご案内します。国の登録有形文化財の農学部本館や東京とは思えない広大な農場など農学部の教育環境を紹介します。
10月12日（日）	応用生物科学科	
10月19日（日）	環境資源科学科、 地域生態システム学科	

工学部		
日程	対象	名称（内容）
8月5日（火）		●夏のオープンキャンパス ～学部説明会～ 学科別説明会 8月5日（火）10:00～12:00 13:30～15:30 8月6日（水）10:00～12:00
8月6日（水）	全学科	
調整中	全学科	●秋のオープンキャンパス ～研究室大公開～ 学科別説明会 13:00～15:00

上記の日時で開催予定ですが、変更する場合もございます。参加される前に必ず本学WEBサイトにてご確認ください。

参加申し込み

事前のお申し込みが必要です。WEBサイトからお申し込みください。
※開催日により説明する学科が異なります。定員になり次第、締め切る場合があります。

問い合わせ

農学部広報担当 ▶ 電話：042-367-5799 E-mail：a-koho@cc.tuat.ac.jp
工学部広報担当 ▶ 電話：042-388-7741 E-mail：k-koho@cc.tuat.ac.jp

<https://www.tuat.ac.jp/admission/opencampus/>



学園祭 2025 各学園祭の学生委員が主体となって企画・実施をします。

皐楓祭（小金井キャンパス）

5/25^{TU}

毎年5月に行われます。受験生や地域の方々に本学を知ってもらう機会とするとともに、在学生に学年や学科、サークルの垣根を越えて交流してもらう機会としています。

農工祭（府中キャンパス）

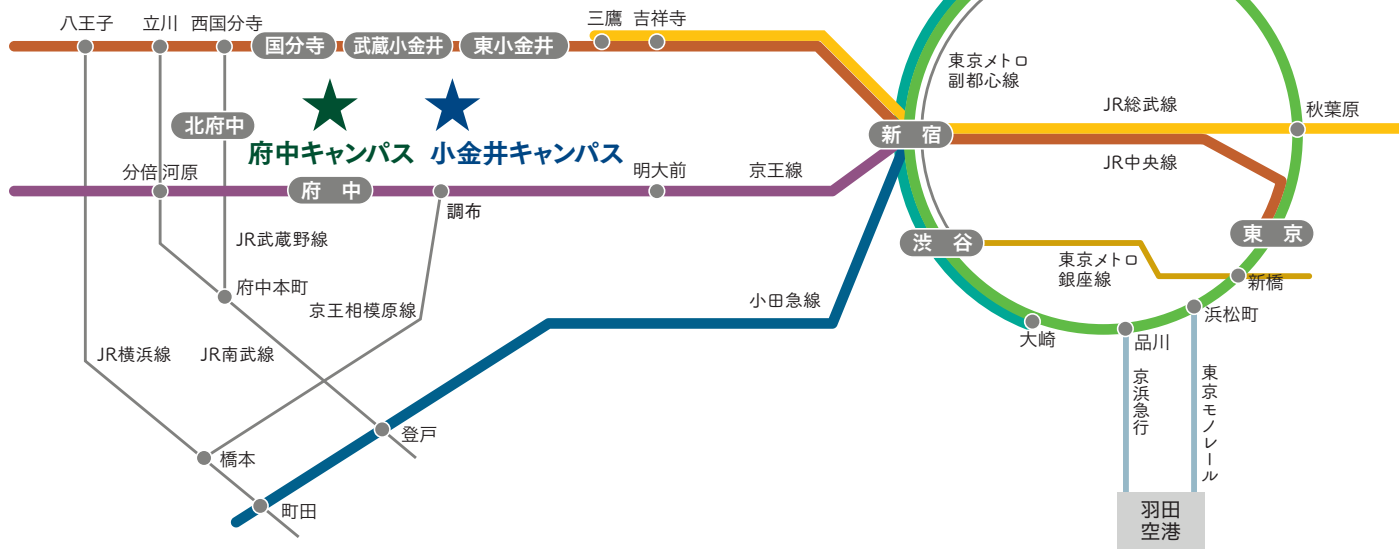
11/14^{FRI}, 15^{SAT}, 16^{SUN}

模擬店、野菜市、ライブステージ、受験生相談や研究室公開など、さまざまな企画が催されます。なお、農学部主催の「農学サイエンスフェスタ（ポスターによる研究紹介）」などが同期間に開催されます。



ACCESS MAP

都心からアクセス良好な2つのキャンパス



府中キャンパス

〒183-8509
東京都府中市幸町3-5-8

交通案内

- JR中央線「国分寺駅」下車→南口2番乗場から「府中駅行バス(明星学苑経由)」約10分「晴見町(東京農工大学前)」バス停下車
- 京王線「府中駅」下車→北口バスターミナル3番乗場から「国分寺駅南口行バス(明星学苑経由)」約7分「晴見町(東京農工大学前)」バス停下車
- JR武蔵野線「北府中駅」下車、徒歩約12分

小金井キャンパス

〒184-8588
東京都小金井市中町2-24-16

交通案内

- JR中央線「東小金井駅」下車、南口徒歩8分、nonowa口徒歩約6分
- JR中央線「武蔵小金井駅」下車、徒歩約20分

東京農工大学ウェブサイト

<https://www.tuat.ac.jp/>



東京農工大学の学部、大学院、入試情報のほか、オープンキャンパスや相談会、説明会のイベント情報など、さまざまな情報を発信。ドローンを使用して空撮した両キャンパスの映像は必見です。



受験生向け特別サイト

<https://web.tuat.ac.jp/~admiss/>



受験生の気になるキャンパスライフ情報を公開しています。研究室やサークル、農工大生の1日の様子、活躍する卒業生、学生生活の情報など、受験生の皆様へ向けた情報をお届けします。



Instagram



@tuat_hakkenkoken

大学で開催されたイベントやキャンパスの日常、クラブ・サークル活動の様子を公式キャラクターの「ハッケンコウケン」が発信しています。



X



@TUAT_all

東京農工大学の“今”をつぶやきます! プレスリリースやイベント情報、サークルの活動、卒業生の近況など、バラエティに富んだ内容でつぶやいています。



LINE



@tuat

オープンキャンパスなど学内外で開催するイベント情報、入試に関する情報などをお届けします。農工大公式キャラクター「ハッケンコウケン」のLINEスタンプもあります。

